

北村山公立病院

新病院建設基礎調査報告書

令和 4（2022）年 1 月

北村山公立病院

目次

はじめに.....	- 1 -
本基礎調査報告書の位置づけ.....	- 1 -
(1) 外部環境分析.....	- 2 -
①北村山地域の概況及び人口状況.....	- 2 -
②将来人口の予測.....	- 3 -
③疾病傾向.....	- 5 -
④将来患者需要予測.....	- 7 -
⑤救急患者発生の状況.....	- 11 -
(2) 内部環境の分析.....	- 14 -
①病院の強み・特色.....	- 14 -
②病院の現状.....	- 15 -
I. 患者数推移（資料 15 及び資料 16）.....	- 15 -
II. 平均在院日数及び病床利用率推移（資料 17）.....	- 16 -
III. 診療単価の推移（資料 18）.....	- 16 -
③診療状況分析.....	- 17 -
I. 病棟.....	- 17 -
II. 救急.....	- 20 -
III. 手術.....	- 22 -
IV. リハビリテーション.....	- 23 -
V. 人工透析.....	- 24 -
④病院の課題.....	- 25 -
(3) 医療環境・地域医療体制の分析.....	- 26 -
①村山二次医療圏内の病院状況.....	- 26 -
(4) 地域医療機関との連携.....	- 30 -
①近隣市町の医療機関との連携.....	- 30 -
②北村山地域の医療機関との連携.....	- 32 -
(5) ベンチマーク.....	- 33 -
①基本データ.....	- 33 -
②機能比較.....	- 34 -
③ベンチマーク（グラフによる比較）.....	- 34 -
(6) 課題の体系化、基本コンセプトの策定.....	- 37 -

①北村山地域で求められる病院像（5疾病6事業について）	- 37 -
（7）新病院整備について	- 39 -
（8）おわりに	- 40 -

はじめに

本基礎調査報告書の位置づけ

北村山公立病院は、北村山地域三市一町を構成市町とする一部事務組合を運営法人とする公立病院である。昭和 37 年の一部事務組合設立時より、三市一町の協力のもと、急性期や救急の医療拠点としての役割を果たしている。昭和 48 年に現在地へ新築移転、以後の増改築の際も、病院をめぐる医療需要の動向を見極めながら施設設備を図ってきた。

山形県では、将来の医療需要と必要病床数を示すとともに、目指すべき医療体制を実現するための施策を内容とする「山形県地域医療構想」を策定している。このなかで、村山構想地域（西村山・北村山地域）では施設の老朽化により建て替え時期が迫っている基幹病院があり、それぞれの地域において、診療機能を必要なものに重点化を図ったうえで、病床規模の適正化を進めるとしている。

本基礎調査報告書は、北村山公立病院の外部環境及び内部環境に関する現状分析を行い、北村山地域における当院の位置づけを再確認し、築 48 年を経過し老朽化している建物の再整備に向けての課題抽出及び方向性の共有を目的とする。また、今後予定されている新病院の基本構想・基本計画策定の基礎資料として、計画内容を具体化するとともに、次年度以降の策定作業の円滑化を目指すものである。

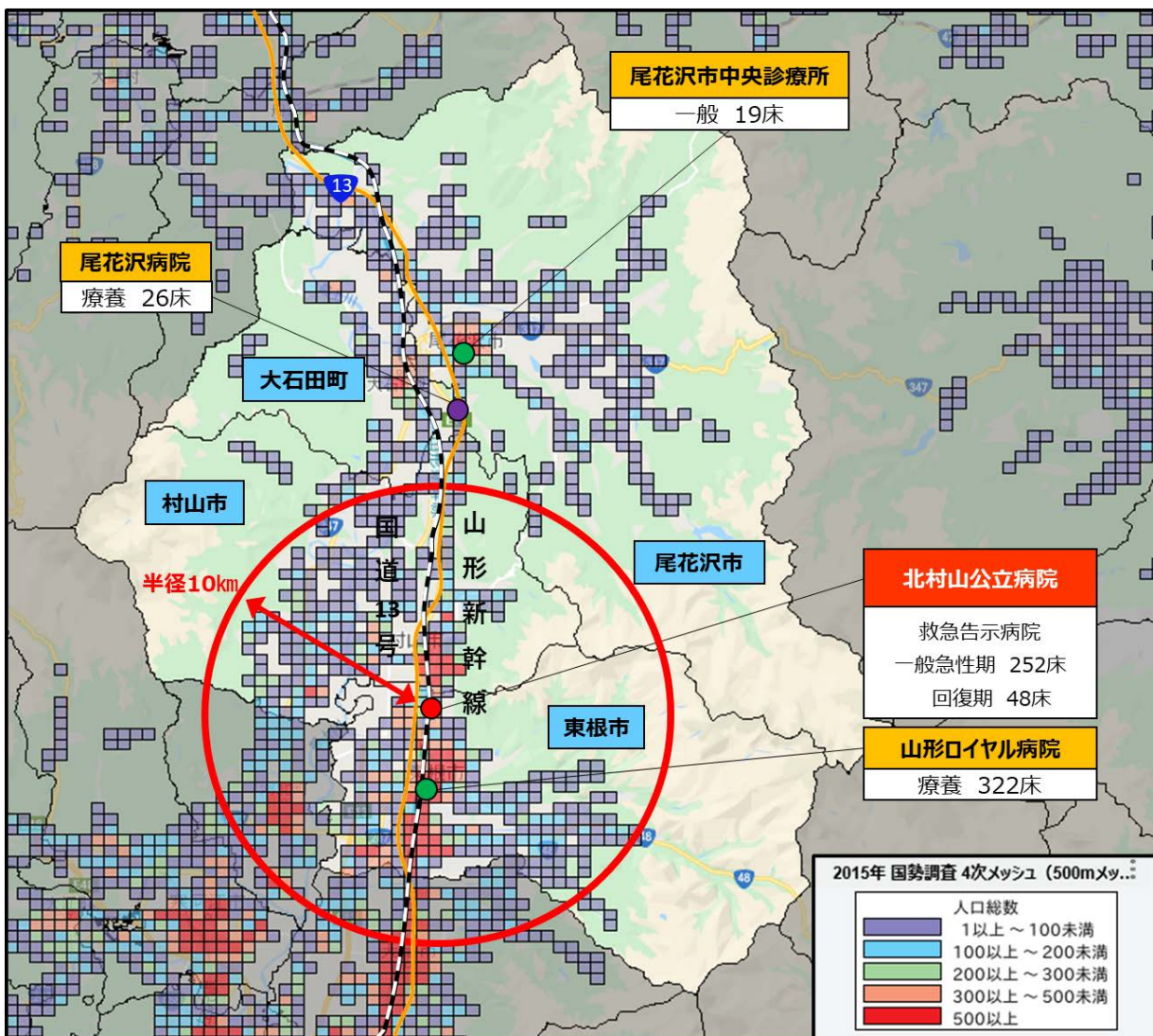


(1) 外部環境分析

① 北村山地域の概況及び人口状況

- ア) 北村山公立病院は、村山二次医療圏の北部に位置し、東根市・村山市・尾花沢市・大石田町の3市1町（以下「北村山地域」という。）で唯一の救急告示病院として実績がある。第7次山形県保健医療計画において地域唯一の基幹病院として、明確に位置づけられている。
- イ) 令和4（2022）年1月時点での人口は、東根市 47,941 人、村山市 22,652 人、尾花沢市 14,913 人、大石田町 6,518 人、北村山地域の合計は 92,024 人となっている。
- ウ) 人口は、山形新幹線及び国道13号等の交通インフラがある幹線沿いに集中している。特に北村山公立病院が立地する東根市に人口が集中している。一方、南部には山形市や天童市など人口の多い市があり、人口の流動性も高い。
- エ) 北村山地域では北村山公立病院のみが救急から回復期までの医療サービスを提供している。また、尾花沢市中央診療所は市立の有床診療所として医療を提供している。（資料1）

(資料1) 北村山地域の人口分布及び病院設置状況



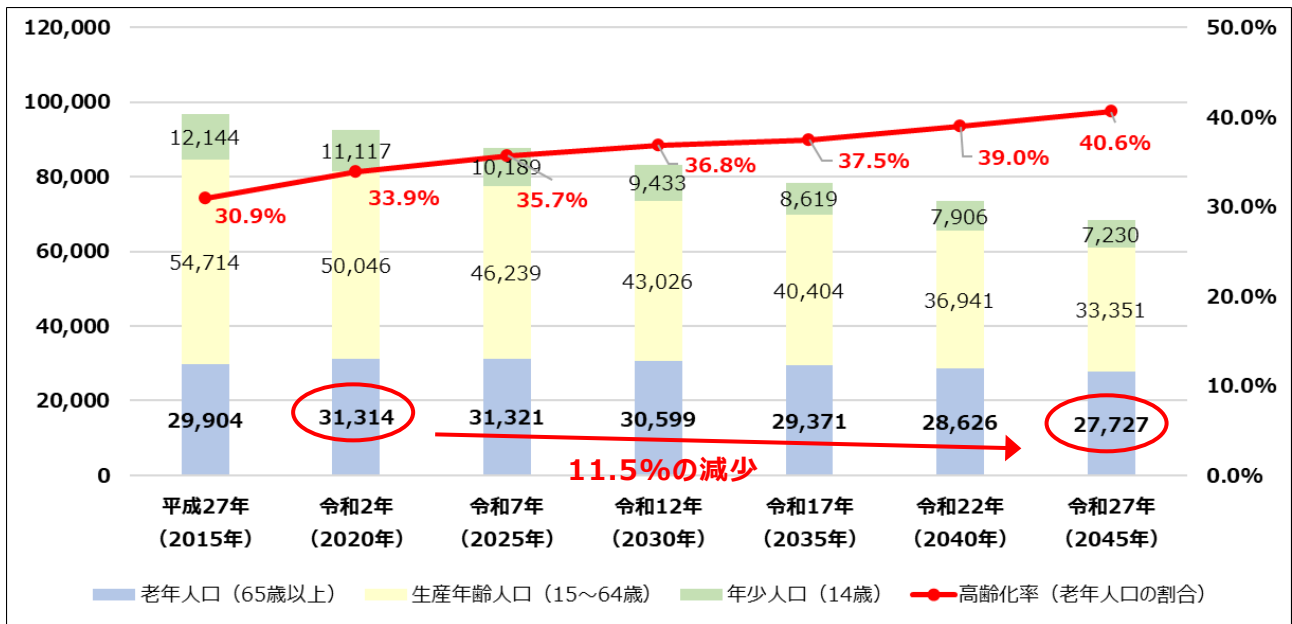
出典：平成27（2015）年国勢調査を元に「政府統計窓口（e-Stat）」にて人口メッシュ図を作成

② 将来人口の予測

ア) 北村山地域では、総人口の減少及び急速な高齢化が想定されている。

イ) 一方、医療需要の主たる対象の 65 歳以上人口の減少は緩やかであると想定されており、一定の医療提供体制の整備が必要である。(資料 2)

(資料 2) 北村山地域の人口推計 (単位 : 人)

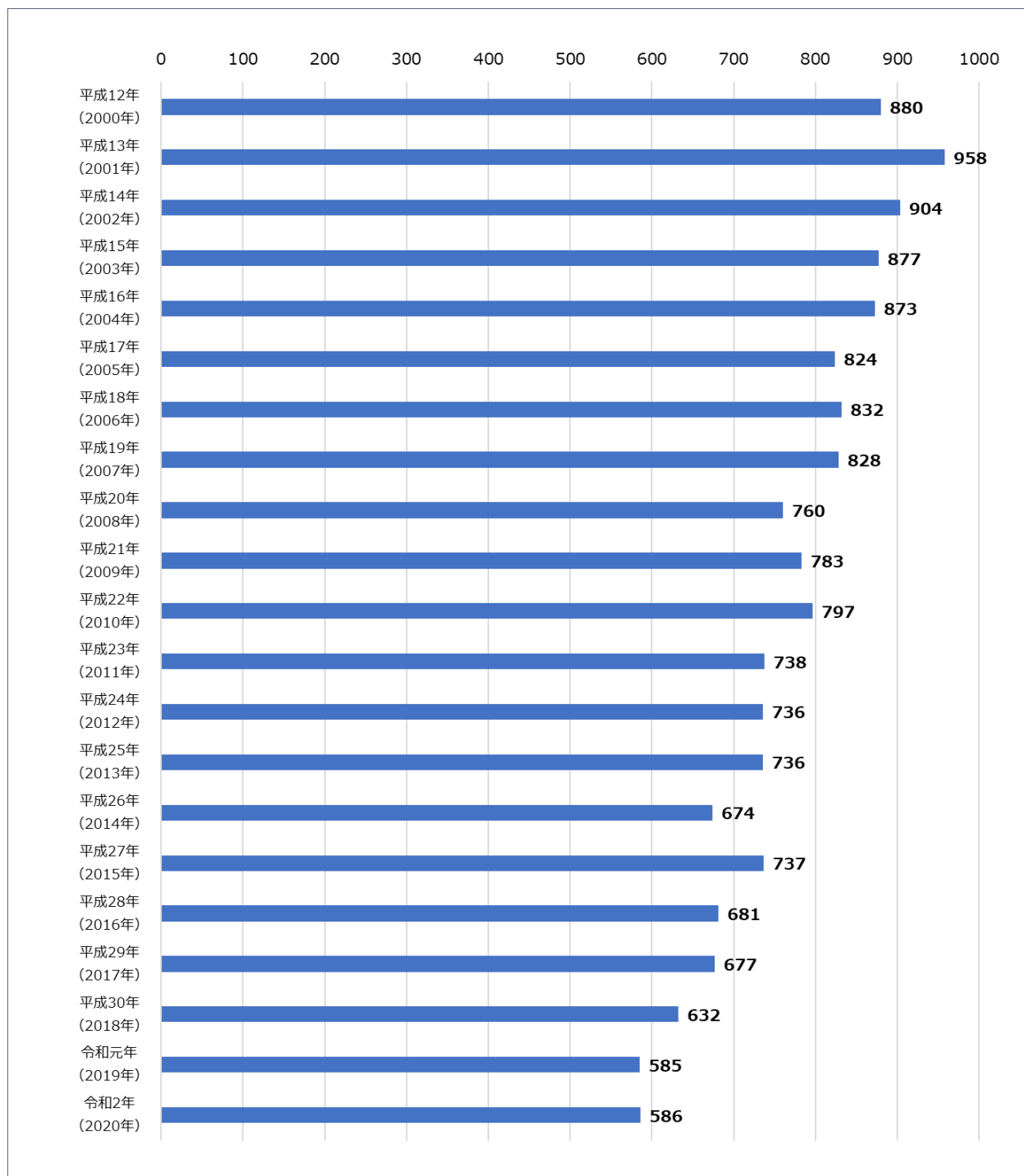


区分	平成27年 (2015年)	令和2年 (2020年)	令和7年 (2025年)	令和12年 (2030年)	令和17年 (2035年)	令和22年 (2040年)	令和27年 (2045年)
年少人口 (14歳以下)	12,144	11,117	10,189	9,433	8,619	7,906	7,230
構成比率	12.6%	12.0%	11.6%	11.4%	11.0%	10.7%	10.6%
生産年齢人口 (15~64歳)	54,714	50,046	46,239	43,026	40,404	36,941	33,351
構成比率	56.5%	54.1%	52.7%	51.8%	51.5%	50.3%	48.8%
老年人口 (65歳以上)	29,904	31,314	31,321	30,599	29,371	28,626	27,727
構成比率	30.9%	33.9%	35.7%	36.8%	37.5%	39.0%	40.6%
合計	96,762	92,477	87,749	83,058	78,394	73,473	68,308

出典：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（平成 30（2018）年推計）より

ウ) 北村山地域の出産数は減少しているが、地域での分娩の対応が可能な施設が 1 施設のみであること、小児の入院機能が十分でないこと等、産婦人科及び小児科に関する機能整備の検討が必要である。
(資料 3)

(資料 3) 北村山地域の出産数推移 (単位 : 人)



出典 : 山形県人口動態調査より

③ 疾病傾向

ア) 平成 29 年の疾病別入院患者数とその割合について、全国・山形県・村山二次医療圏で比較すると、村山二次医療圏においては以下の疾病傾向がみられる。(資料 4)

(入院)

- ・精神及び神経系の疾患が多いのは、高齢者人口の割合が高いことに起因していると考えられる。
- ・循環器系の疾患については、山形県、村山二次医療圏共に、全国に比べて割合が 1.0 ポイント以上低い。
- ・村山二次医療圏で入院患者数が多い疾病は、精神及び行動の障害 (1,300 人)、循環器系の疾患 (1,000 人)、神経系の疾患 (8,000 人)、新生物<腫瘍> (7,000 人) となっている。

(外来)

- ・循環器系の疾患が全国に比べて 4.0 ポイント高い。
- ・消化器系の疾患は全国、山形県ともに患者数の割合が高い。
- ・皮膚系の疾患と筋骨格及び結合組織の疾患が全国に比べて低い。
- ・山形県で外来患者数が多い疾病は、消化器系の疾患 (12,200 人)、循環器系の疾患 (10,700 人)、筋骨格及び結合組織の疾患 (7,400 人)、呼吸器の疾患 (5,600 人) となっている。

(資料 4) 平成 29 年病院の疾病別入院と外来の患者数とその割合 (単位は千人)

疾病分類	入院患者数 (病院のみ)						外来患者総数 (全施設)			
	全国		山形県		村山二次医療圏		全国		山形県	
	患者数	構成比	患者数	構成比	患者数	構成比	患者数	構成比	患者数	構成比
総数	1,272.60		11.9		6.1		7,191.00		65.3	
感染症及び寄生虫症	19.5	1.5%	0.2	1.7%	0.1	1.6%	169.8	2.4%	1.3	2.0%
新生物<腫瘍>	140.6	11.0%	1.4	11.8%	0.7	11.5%	249.5	3.5%	2.9	4.4%
血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	5.7	0.4%	0.1	0.8%	0.0	0.0%	21.1	0.3%	0.2	0.3%
内分泌、栄養及び代謝疾患	31.6	2.5%	0.2	1.7%	0.1	1.6%	442.9	6.2%	4.2	6.4%
精神及び行動の障害	250.4	19.7%	2.4	20.2%	1.3	21.3%	260.9	3.6%	2.1	3.2%
神経系の疾患	124.3	9.8%	1.4	11.8%	0.8	13.1%	164.9	2.3%	1.4	2.1%
眼及び付属器の疾患	10.6	0.8%	0.1	0.8%	0.0	0.0%	358.5	5.0%	3.8	5.8%
耳及び乳様突起の疾患	2.5	0.2%	0.0	0.0%	0.0	0.0%	99.2	1.4%	1.0	1.5%
循環器系の疾患	222.4	17.5%	1.8	15.1%	1.0	16.4%	888.9	12.4%	10.7	16.4%
呼吸器系の疾患	93.3	7.3%	0.8	6.7%	0.4	6.6%	629.9	8.8%	5.6	8.6%
消化器系の疾患	64.2	5.0%	0.6	5.0%	0.3	4.9%	1,293.2	18.0%	12.2	18.7%
皮膚及び皮下組織の疾患	11.3	0.9%	0.1	0.8%	0.0	0.0%	303.5	4.2%	1.9	2.9%
筋骨格系及び結合組織の疾患	67.3	5.3%	0.6	5.0%	0.3	4.9%	877.2	12.2%	7.4	11.3%
腎尿路生殖器系の疾患	47.5	3.7%	0.5	4.2%	0.2	3.3%	321.5	4.5%	2.7	4.1%
妊娠、分娩及び産後	13.0	1.0%	0.2	1.7%	0.1	1.6%	15.1	0.2%	0.1	0.2%
周産期に発生した病態	6.7	0.5%	0.1	0.8%	0.0	0.0%	3.0	0.0%	0.0	0.0%
先天奇形、変形及び染色体異常	5.7	0.4%	0.1	0.8%	0.0	0.0%	14.1	0.2%	0.1	0.2%
症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	13.7	1.1%	0.1	0.8%	0.1	1.6%	78.9	1.1%	0.5	0.8%
損傷、中毒及びその他の外因の影響	131.0	10.3%	1.1	9.2%	0.5	8.2%	299.0	4.2%	2.3	3.5%
健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	11.2	0.9%	0.1	0.8%	0.1	1.6%	700.1	9.7%	5.0	7.7%

出典：厚生労働省「平成 29 年患者調査」から「病院の推計入院患者数 (患者住所地)」、二次医療圏×傷病分類別]及び「推計外来患者数 (患者住所地)」、都道府県・外来 (初診-再来) × 傷病分類 × 病院-一般診療所別]を再集計

イ) 平成 25 年から 29 年までの主要死亡要因を全国・山形県・村山二次医療圏・北村山地域にて比較すると、以下の傾向がみられる。(資料 5)

- ・悪性新生物（がん）については、山形県・村山二次医療圏・北村山地域共に全国平均より 1.3 ポイント以上低い。
- ・心疾患については、北村山地域は全国・山形県・村山二次医療圏に比べて 1.0 ポイント以上低い。
- ・脳血管疾患については、山形県・村山二次医療圏・北村山地域共に全国平均よりも 1.0 ポイント以上高い。特に北村山地域は全国平均よりも 3.2 ポイント、山形県よりも 1.1 ポイント高い。
- ・肺炎については、山形県・村山二次医療圏・北村山地域共に全国平均とほぼ同じ程度である。
- ・老衰については、山形県・村山二次医療圏・北村山地域共に全国平均よりも 1.6～2.0 ポイント高い。

ウ) 北村山地域の疾病傾向から、脳血管疾患に対しての治療と、老衰に対しての地域医療への取り組みが必要である。

(資料 5) 平成 25 年～29 年 死亡数、地域別主要死因データ (単位：人)

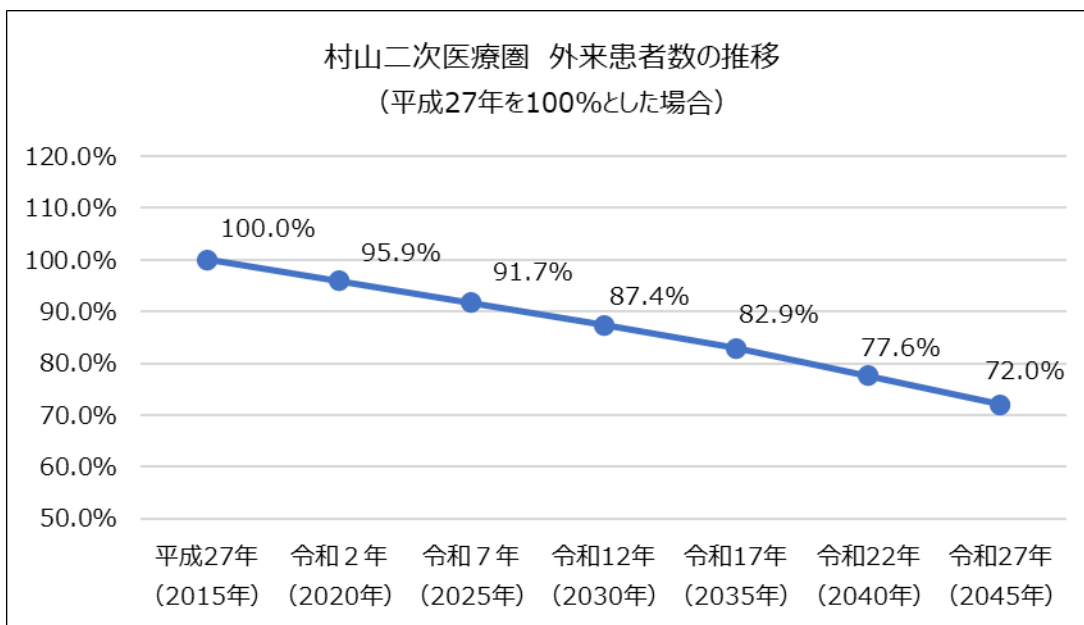
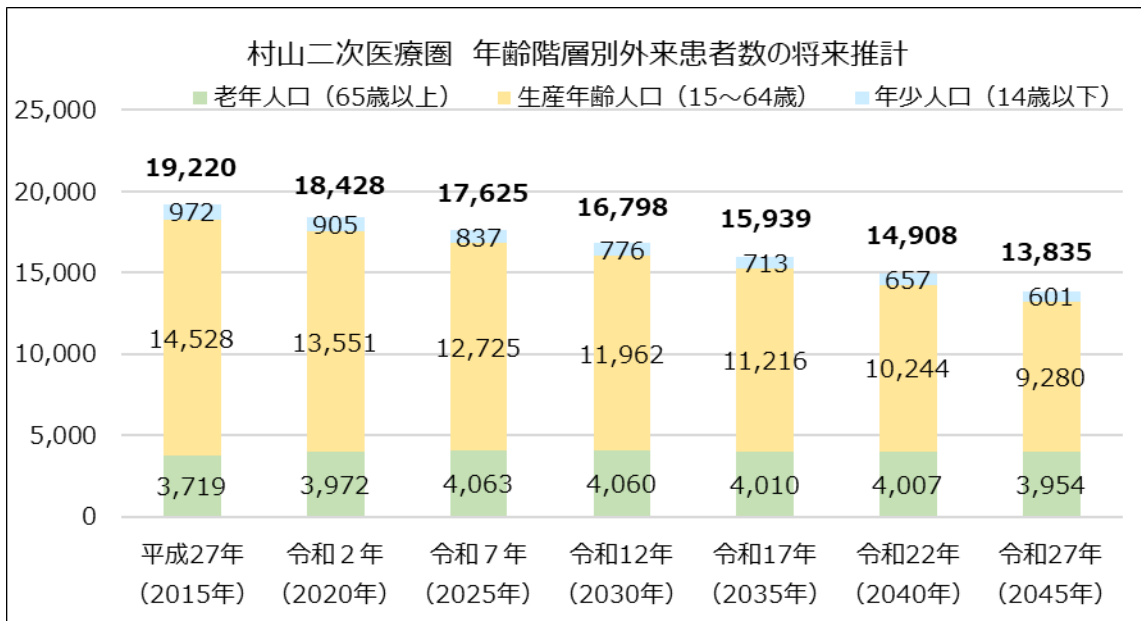
	全死因		悪性新生物		心疾患		脳血管疾患		肺炎		老衰		不慮の事故	
	死者数	割合	死者数	割合	死者数	割合	死者数	割合	死者数	割合	死者数	割合	死者数	割合
全国	6,474,352		1,848,924	28.6%	992,008	15.3%	563,339	8.7%	579,419	8.9%	424,134	6.6%	195,181	3.0%
山形県	75,534		20,106	26.6%	11,545	15.3%	8,186	10.8%	6,626	8.8%	6,379	8.4%	2,369	3.1%
村山二次医療圏	33,186		9,061	27.3%	5,176	15.6%	3,472	10.5%	3,110	9.4%	2,838	8.6%	947	2.9%
北村山地域	6,453		1,742	27.0%	915	14.2%	766	11.9%	584	9.1%	526	8.2%	206	3.2%

出典：厚生労働省「人口動態統計特殊報告 平成 25～29 年 人口動態保健所・市区町村別統計 死亡数，主要死因・性・都道府県・保健所・市区町村別」を再集計

④将来患者需要予測

ア) 村山二次医療圏の将来人口推計と、山形県の外来受療率を用いて、将来外来患者数を推計したところ、外来患者数は平成 27 年以降減少傾向となっており、令和 27 年には 1 日あたり 13,835 人の医療需要が見込まれる。(資料 6)

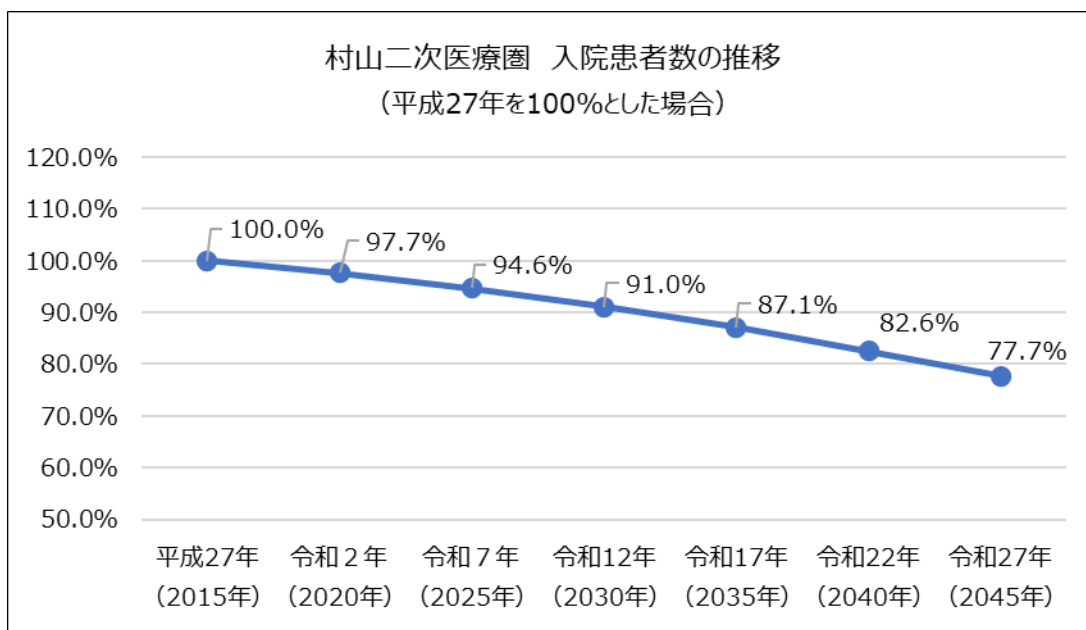
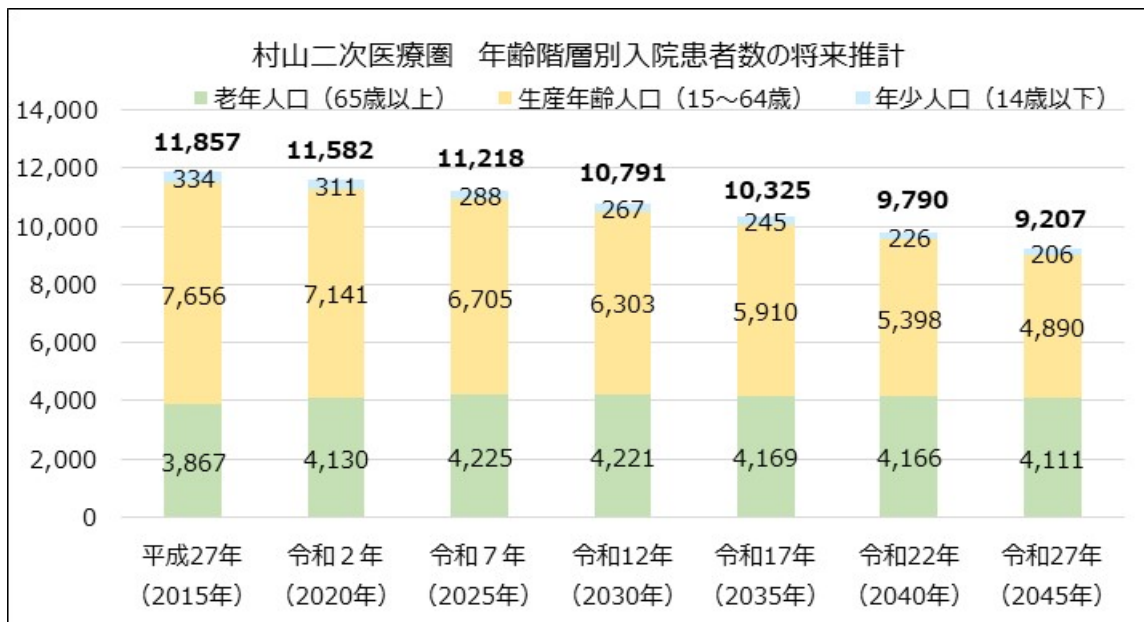
(資料 6) 村山二次医療圏の外来患者数推計 (人/日)



出典 : 厚生労働省「平成 29 年患者調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口 (平成 30 (2018) 年推計) を用いて再集計。

イ) 村山二次医療圏の将来人口推計結果と、山形県の外来受療率を用いて、将来入院患者数を推計したところ、入院患者数は平成 27 年以降減少傾向となっており、令和 27 年には 1 日あたり 9,207 人の医療需要が見込まれる。(資料 7)

(資料 7) 村山二次医療圏の入院患者数推計 (人/日)



出典 : 厚生労働省「平成 29 年患者調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口 (平成 30 (2018) 年推計) を用いて再集計。

ウ) 村山二次医療圏の疾患別の外来患者推計においては、患者数推移と同様に減少傾向であるが、令和17年まで「循環器系の疾患」の患者数増加が見込まれる。(資料8)

(資料8) 村山二次医療圏 疾病別外来患者の将来推計(人/日)及び増減率

※赤は患者数が20人以上増見込み、青は患者数が20人以上減又は減少率が10%以上

	平成27年 (2015年)	令和2年 (2020年)	令和7年 (2025年)	令和12年 (2030年)	令和17年 (2035年)	令和22年 (2040年)	令和27年 (2045年)	平成27年→令和17年		平成27年→令和27年	
								増加率	増加数	増加率	増加数
総数	33,394	33,141	32,681	31,943	30,912	29,614	28,121	-7.4%	-2481.6	-15.8%	-5,272.7
I 感染症及び寄生虫症	704	676	644	610	576	544	509	-18.1%	-127.3	-27.7%	-194.6
II 新生物<腫瘍>	1,424	1,438	1,443	1,423	1,382	1,330	1,270	-3.0%	-42.2	-10.8%	-153.8
III 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	100	97	96	94	88	81	75	-12.2%	-12.3	-25.5%	-25.6
IV 内分泌、栄養及び代謝疾患	2,084	2,105	2,089	2,044	1,993	1,932	1,856	-4.4%	-91.7	-10.9%	-228.1
V 精神及び行動の障害	1,086	1,055	1,018	975	928	874	818	-14.6%	-158.3	-24.7%	-267.9
VI 神経系の疾患	745	741	730	724	712	688	654	-4.5%	-33.4	-12.3%	-91.4
VII 眼及び付属器の疾患	1,914	1,918	1,903	1,876	1,831	1,769	1,692	-4.3%	-82.6	-11.6%	-221.5
VIII 耳及び乳様突起の疾患	500	489	476	460	441	420	396	-11.8%	-58.8	-20.7%	-103.7
IX 循環器系の疾患	5,422	5,524	5,571	5,586	5,533	5,398	5,192	2.0%	110.8	-4.2%	-230.0
X 呼吸器系の疾患	3,010	2,874	2,721	2,567	2,412	2,256	2,096	-19.8%	-597.5	-30.4%	-914.3
X I 消化器系の疾患	6,152	6,063	5,932	5,716	5,449	5,169	4,880	-11.4%	-702.9	-20.7%	-1,272.1
X II 皮膚及び皮下組織の疾患	983	946	904	857	809	761	711	-17.7%	-174.1	-27.7%	-271.9
X III 筋骨格系及び結合組織の疾患	3,731	3,777	3,809	3,797	3,736	3,622	3,473	0.1%	4.1	-6.9%	-258.5
X IV 腎尿路生殖系系の疾患	1,339	1,347	1,356	1,347	1,310	1,255	1,195	-2.2%	-29.7	-10.8%	-144.8
X V 妊娠、分娩及び産後	86	79	71	63	57	52	47	-33.4%	-28.5	-45.2%	-38.6
X VI 周産期に発生した病態	10	9	8	8	7	7	6	-25.8%	-2.5	-38.1%	-3.6
X VII 先天奇形、変形及び染色体異常	54	51	48	44	41	38	35	-25.0%	-13.6	-35.9%	-19.5
X VIII 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	264	259	252	242	231	219	207	-12.5%	-33.0	-21.5%	-56.8
X IX 損傷、中毒及びその他の外因の影響	1,202	1,173	1,143	1,108	1,064	1,009	949	-11.5%	-138.7	-21.1%	-253.5
X X I 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	2,585	2,521	2,469	2,404	2,315	2,193	2,062	-10.4%	-269.8	-20.2%	-522.8

エ) 一方、疾患別の入院患者数推計においては、令和17年まで「神経系の疾患」、「循環器系の疾患」、「呼吸器系の疾患」の増加が見込まれる。(資料9)

(資料9) 村山二次医療圏 疾病別入院患者の将来推計(人/日)及び増減率

※赤は患者数が20人以上増見込み、橙は患者数が10人以上20人未満増見込み、青は患者数が20人以上減又は減少率が10%以上

	平成27年 (2015年)	令和2年 (2020年)	令和7年 (2025年)	令和12年 (2030年)	令和17年 (2035年)	令和22年 (2040年)	令和27年 (2045年)	平成27年→令和17年		平成27年→令和27年	
								増加率	増加数	増加率	増加数
総数	6,332	6,385	6,409	6,423	6,345	6,155	5,879	0.2%	12.5	-7.2%	-453.6
I 感染症及び寄生虫症	90	91	93	94	93	91	87	4.1%	3.7	-2.9%	-2.6
II 新生物<腫瘍>	702	718	723	722	711	695	669	1.4%	9.8	-4.7%	-32.8
III 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	35	35	35	35	35	33	32	-0.1%	0.0	-8.7%	-3.0
IV 内分泌、栄養及び代謝疾患	128	130	133	135	135	131	125	5.2%	6.6	-2.5%	-3.2
V 精神及び行動の障害	1,231	1,221	1,194	1,160	1,122	1,077	1,023	-8.9%	-109.1	-16.9%	-207.9
VI 神経系の疾患	738	747	756	765	759	737	704	2.9%	21.2	-4.6%	-34.3
VII 眼及び付属器の疾患	29	30	31	31	30	29	28	2.6%	0.8	-5.3%	-1.6
VIII 耳及び乳様突起の疾患	11	11	11	10	9	9	8	-14.6%	-1.6	-22.9%	-2.5
IX 循環器系の疾患	977	997	1,019	1,045	1,048	1,024	981	7.4%	71.8	0.5%	4.5
X 呼吸器系の疾患	429	438	455	469	469	457	436	9.3%	40.0	1.6%	7.1
X I 消化器系の疾患	337	342	344	345	341	331	317	1.1%	3.7	-6.1%	-20.5
X II 皮膚及び皮下組織の疾患	50	50	51	52	53	51	49	4.9%	2.5	-2.6%	-1.3
X III 筋骨格系及び結合組織の疾患	330	336	339	339	334	325	312	1.2%	3.9	-5.3%	-17.4
X IV 腎尿路生殖系系の疾患	243	249	255	260	259	252	242	6.4%	15.6	-0.5%	-1.1
X V 妊娠、分娩及び産後	130	119	105	94	85	77	70	-34.1%	-44.2	-45.9%	-59.5
X VI 周産期に発生した病態	32	31	28	26	24	22	20	-25.9%	-8.3	-38.3%	-12.3
X VII 先天奇形、変形及び染色体異常	37	36	34	32	30	27	26	-20.4%	-7.6	-31.4%	-11.7
X VIII 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	82	82	82	83	83	81	77	1.0%	0.8	-5.8%	-4.7
X IX 損傷、中毒及びその他の外因の影響	626	630	629	638	638	624	596	1.9%	12.1	-4.9%	-30.4
X X I 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	96	94	92	90	87	83	78	-9.1%	-8.8	-18.8%	-18.0

出典：厚生労働省「平成29年患者調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(平成30(2018)年推計)を用いて再集計。

オ) 令和 3 (2021) 年の北村山公立病院が対象とする疾病の患者数を試算すると、北村山地域の入院患者数は 390 人/日の需要が見込まれる。(資料 10)

カ) 令和 27 (2045) 年の北村山公立病院が対象とする疾病の患者数を試算すると、北村山地域の 65 才以上の人口の減少率が 11.5%と想定されている(資料 2) ことから、北村山地域の入院患者数は 345 人/日となり、現在の病床規模を維持できる需要が見込まれる。(資料 10)

(資料 10) 北村山地域における将来患者需要予測 (単位 : 人/日)

	項目	入院患者数	外来患者数
I	平成29 (2017) 年 全国における1日あたりの患者数	1,312,600	1,630,000
II	平成29 (2017) 年 山形県における 1 日あたりの患者数	12,300	14,900
III	令和3 (2021) 年 北村山地域にて想定される一日あたりの患者数	390	520
IV	令和27 (2045) 年 北村山地域にて想定される一日あたりの患者数	345	460

出典 : 厚生労働省「平成 29 年患者調査」から「病院の推計入院患者数 (施設所在地) , 傷病分類×病床区分」及び「推計外来患者数 (患者住所地) , 都道府県・外来 (初診 - 再来) × 傷病分類 × 病院 - 一般診療所別」、人口動態調査 (山形県、令和 3 年 10 月 1 日) 、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口 (平成 30 (2018) 年推計) を用いて再集計。

計算方法 : 資料 10 の算出方法

項番	内容	計算式	入院		外来	
①	全国の 1 日あたりの患者数 (人)		1,312,600	人	1,630,000	人
②	北村山公立病院が入院機能を有する疾病分類の 1 日あたりの全国の患者数 (人)		960,100	人	1,313,000	人
③	②の①に対する比率	= (②/①)	0.731	比率	0.81	比率
④	山形県の 1 日あたりの患者数 (人)		12,300	人	14,900	人
⑤	北村山地域 (92,477) と山形県 (1,055,398) の人口比率 (令和3年10月1日現在)	= (92,477 / 1,055,398)	0.088	比率	0.088	比率
⑥	北村山地域における 1 日あたりの患者数 (人)	= ④ × ⑤	1,078	人	1,306	人
⑦	北村山公立病院が入院機能を有する疾病分類の 1 日あたりの患者数 (人)	= ⑥ × ③	788	人	1,052	人
⑧	北村山地域における 1 日あたりの患者数 (人) おける一般病床比率 (0.569) に変換	= ⑦ × 0.569	449	人	598	人
⑨	一般病床区分 (超急性期 (0.131) / 急性期 (0.439) / 回復期 (0.43)) のうち急性期及び回復期のみを抽出	= ⑧ × (0.439 + 0.43)	390	人	520	人
⑩	北村山地域の人口減少率 (88.5%)	= ⑨ × 0.885	345	人	460	人

⑤救急患者発生状況

ア) 北村山地域において、高齢者の急病による救急搬送が救急搬送者全体の46.2%を占めている。

(資料 11)

(資料 11) 北村山地域の年齢別救急搬送者数及びその割合

搬送消防	年齢区分	計	火災	自然災害	水難	交通事故	労働災害	運動競技	一般負傷	加害	自損行為	急病	その他
東根市消防	新生児	2											2
	乳幼児	70				7			9			52	2
	少年	52				5		5	12			28	2
	成人	505	3			77	15	10	48		12	255	85
	高齢者	1,095				38	3		144		1	740	169
村山市消防	新生児												
	乳幼児	27				7			5			15	
	少年	23				4			2			17	
	成人	194	2			44	6	4	16	1	6	108	7
	高齢者	619				21	3		106		1	433	55
尾花沢市消防	新生児												
	乳幼児	32				1			4			27	
	少年	15				1		2	4			7	1
	成人	211	2			34	4	1	36		1	124	9
	高齢者	616				17	6		93	1	1	427	71
救急搬送者計	新生児	2											2
	乳幼児	129				15			18			94	2
	少年	90				10		7	18			52	3
	成人	910	7			155	25	15	100	1	19	487	101
	高齢者	2,330				76	12		343	1	3	1,600	295
	計	3,461	7			256	37	22	479	2	22	2,233	403
割合	新生児	0.1%											0.1%
	乳幼児	3.7%				0.4%			0.5%			2.7%	0.1%
	少年	2.6%				0.3%		0.2%	0.5%			1.5%	0.1%
	成人	26.3%	0.2%			4.5%	0.7%	0.4%	2.9%	0.0%	0.5%	14.1%	2.9%
	高齢者	67.3%				2.2%	0.3%		9.9%	0.0%	0.1%	46.2%	8.5%
	計	100.0%	0.2%			7.4%	1.1%	0.6%	13.8%	0.1%	0.6%	64.5%	11.6%

【年齢区分】

- ・新生児：生後 28 日未満の者
- ・乳幼児：生後 28 日以上満 7 歳未満の者
- ・少年：満 7 歳以上満 18 歳未満の者
- ・成人：満 18 歳以上満 65 歳未満の者
- ・高齢者：満 65 歳以上の者

出典：令和 2 年版山形県消防年報より

- イ) 北村山公立病院において北村山地域の救急患者の占有率は 99.2%となっており、北村山地域の中心的な受入機関となっている。(資料 12)
- ウ) 北村山地域全体から地域外への搬送は、山形市が救急患者全体の 22.3%となっており、山形市内の三次救急医療機関を中心に、重症・重篤患者の受入れを行っている。
- エ) 東根市や村山市より河北町へ、尾花沢市より新庄市へなど、搬送先までの収容時間により隣接する医療圏の医療機関に搬送されている。

(資料 12) 北村山地域の救急患者の搬送状況 (単位：人)

搬送元所在地		搬送先医療機関所在地											救急患者 全体 占有率	
		北村山地域内					北村山地域外					合計		
		東根市		村山市	尾花沢市	大石田町	山形市	天童市	河北町	新庄市	その他	全体		当院 (再掲)
		全体	当院 (再掲)											
搬送 消防	東根市消防	907	904		1		422	27	40	1	21	1,419	904	63.7%
	村山市消防	527	524	1	1		125	4	41	4	6	709	524	73.9%
	尾花沢市消防	519	519		6		93	5	11	96	18	748	519	69.4%
計	搬送者数	1,953	1,947	1	8	0	640	36	92	101	45	2,876	1,947	67.7%
	地域占有率	99.5%	99.2%	2.2%	0.4%									
	全体占有率	67.9%	67.7%	0.0%	0.3%		22.3%	1.2%	3.2%	3.5%	1.6%			

出典：令和 2 年北村山地区救急医療対策協議会作成資料より

- オ) 北村山公立病院への搬送以外は、県立救命救急センターへの搬送が多い。また、地理的に県立河北病院及び県立新庄病院への搬送が一定割合顕在している。(資料 13)

(資料 13) 北村山地域の救急患者の医療機関別搬送状況 (単位：人)

搬送先医療機関		搬送元消防							合計
		搬送人数				割合			
		東根市消防	村山市消防	尾花沢市消防	合計	東根市消防	村山市消防	尾花沢市消防	
北村山 地域	北村山公立病院	904	524	519	1,947	31.4%	18.2%	18.0%	67.7%
	その他	3		6	9	0.1%	0.0%	0.2%	0.3%
	小計	907	524	525	1,956	31.5%	18.2%	18.3%	68.0%
北村山 地域外	県立救命救急センター	245	79	77	401	8.5%	2.7%	2.7%	13.9%
	山形大学医学部附属病院	63	25	11	99	2.2%	0.9%	0.4%	3.4%
	山形済生病院	44	10	17	71	1.5%	0.3%	0.6%	2.5%
	山形市立済生館	50	11	1	62	1.7%	0.4%	0.0%	2.2%
	東北中央病院	7		3	10	0.2%	0.0%	0.1%	0.3%
	県立河北病院	38	40	11	89	1.3%	1.4%	0.4%	3.1%
	県立新庄病院		3	92	95	0.0%	0.1%	3.2%	3.3%
	その他	65	17	11	93	2.3%	0.6%	0.4%	3.2%
小計	512	185	223	920	17.8%	6.4%	7.8%	32.0%	
合計		1,419	709	748	2,876	49.3%	24.7%	26.0%	100.0%

出典：令和 2 年北村山地区救急医療対策協議会作成資料より

※県立救命救急センターには、県立中央病院への搬送数を含む。

工) 搬送対象者のうち、北村山公立病院の年間の入院見込患者は、「重症」463 人及び「中等症」697 人、合計 1,160 人となっており、割合に換算すれば救急搬送者全体の 33.5%となっており、全国平均 32.3%よりも 1.2 ポイント高い。(資料 14)

(資料 14) 傷度別救急搬送の割合

搬送消防	傷度区分	計	火災	自然災害	水難	交通事故	労働災害	運動競技	一般負傷	加害	自損行為	急病	その他
東根市消防	死亡	54							2		2	46	4
	重症	400	1			9	3	2	45		5	227	108
	中等症	577	1			22	4	8	66		6	344	126
	軽症	693	1			96	11	5	100			458	22
	その他												
村山市消防	死亡	28				1			2			25	
	重症	211				14	3		44	1	3	127	19
	中等症	253				8	4		29		3	175	34
	軽症	371	2			53	2	4	54		1	246	9
	その他												
尾花沢市消防	死亡	34							6		1	26	1
	重症	192				8	3		35			109	37
	中等症	267				9	3	1	39		1	178	36
	軽症	381	2			36	4	2	57	1		272	7
	その他												
救急搬送者計	死亡	116				1			10		3	97	5
	重症	803	1			31	9	2	124	1	8	463	164
	中等症	1,097	1			39	11	9	134		10	697	196
	軽症	1,445	5			185	17	11	211	1	1	976	38
	計	3,461	7			256	37	22	479	2	22	2,233	403
割合	死亡	3.4%				0.0%			0.3%		0.1%	2.8%	0.1%
	重症	23.2%	0.0%			0.9%	0.3%	0.1%	3.6%	0.0%	0.2%	13.4%	4.7%
	中等症	31.7%	0.0%			1.1%	0.3%	0.3%	3.9%		0.3%	20.1%	5.7%
	軽症	41.8%	0.1%			5.3%	0.5%	0.3%	6.1%	0.0%	0.0%	28.2%	1.1%
	計	100.0%	0.2%			7.4%	1.1%	0.6%	13.8%	0.1%	0.6%	64.5%	11.7%

- 死亡：初診時において、死亡が確認されたもの。
- 重症：傷病の程度が 3 週間の入院加療を必要とするもの。
- 中等症：傷病の程度が入院とするもので重症に至らないもの。
- 軽症：傷病の程度が入院を必要としないもの。
- その他：医師の診断がないもの及び「その他の場所」へ搬送したもの。

出典：令和 2 年版山形県消防年報より

※補足

「令和 2 年北村山地区救急医療対策協議会作成資料（資料 12 及び資料 13）」と「令和 2 年版山形県消防年報」とでは集計の期間が異なるため、数値に違いがある。

(2) 内部環境の分析

① 病院の強み・特色

ア) 北村山地域唯一の基幹病院

当院は北村山地域の急性期医療を支える唯一の医療機関である。第7次山形県保健医療計画でも北村山地域唯一の基幹病院として明確に位置づけられており、救急医療、急性期から回復期までの入院、人工透析、リハビリテーションなど幅広い医療サービスを提供している。

当院と類似した医療環境における公的病院は、一般的に採算性が乏しい現状において、当院は地域医療の最後の砦として、行政・他の医療機関・介護施設等と連携し、地域に必要とされる医療を提供し、住民の生命と健康を守っている。

また、新型コロナウイルス感染症流行への対応は、山形県の要請を受け、発熱外来の開設、専用病床の確保、ワクチン接種への協力など、公的医療機関としての責務を誠実に果たしている。

今後も当院が基幹病院として培ってきた急性期医療の継続的な提供に加えて、医療需要の主たる高齢者医療においても中心的役割を果たしていくことが期待されている。

イ) 北村山地域唯一の救急告示病院

村山二次医療圏における手術や入院を要する患者の救急医療を行う二次救急医療は、県の指定を受けた救急告示病院(18施設)が担っている。当院は昭和54年から北村山地域唯一の救急告示病院として実績を残している。

当院では「断らない病院」という目標を掲げ、二次救急医療機関として、北村山地域及び近隣の救急患者を積極的に受入れている。

年間の救急車受入れ件数やシェア率についても村山二次医療圏で上位に位置している。村山地域メディカルコントロール体制の充実を図るため、消防機関との連携強化や、救急救命士の資質向上を図るための研修受入れなどを積極的に行っている。

ウ) さくらんぼ東根温泉を活用した施設

昭和48年6月に県内初のリハビリテーション施設として、山形県リハビリテーションセンターが当院に併設され、平成12年4月には県より当院に移管された。

当院独自の取り組みとして、併設時より地元のさくらんぼ東根温泉を活用したリハビリテーションを行っている。現在も温泉水を利用したプール訓練を積極的に実施し、疼痛軽減や筋力増強の効果をj得ている。また、入院患者用の入浴施設「なごみ温泉」を整備し、地域に根ざした患者サービスを提供している。

②病院の現状

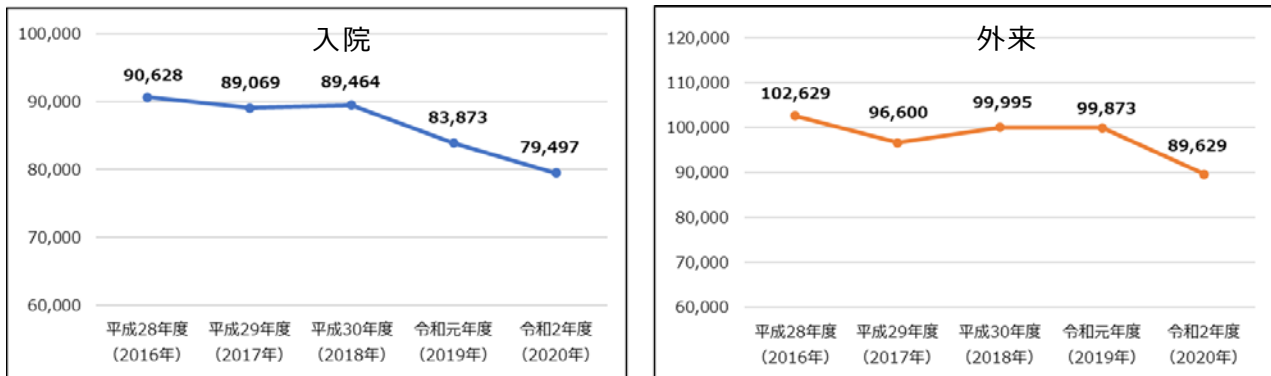
I. 患者数推移（資料 15 及び資料 16）

ア) 平成 28 年度から平成 30 年度まで入院患者、外来患者ともほぼ横ばいで推移した。

イ) 令和元年度の入院患者については、医師数減により、入院患者数が減少した。

ウ) 令和 2 年度は、全国的な新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、入院患者数及び外来患者数が減少した。

（資料 15）年間患者数の推移（単位：人）

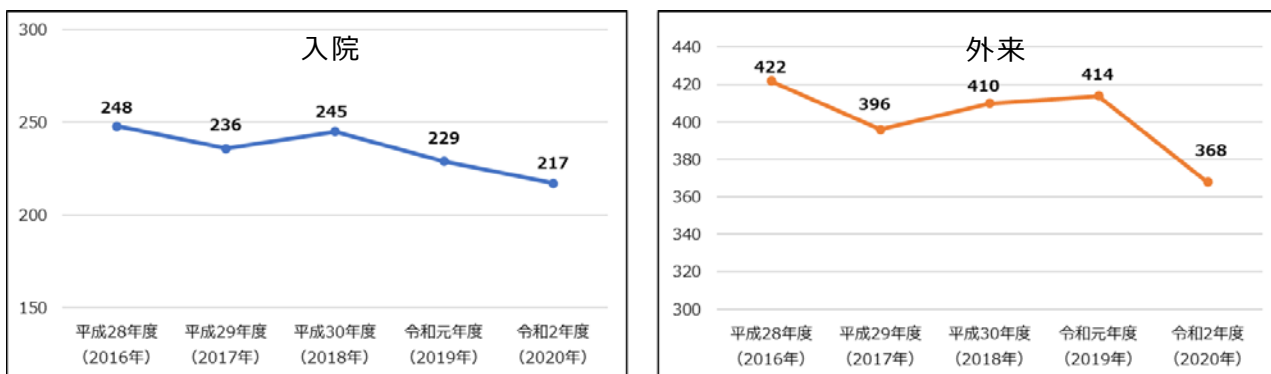


出典：北村山公立病院 病院決算書及び総務省病院経営分析比較表

エ) 外来の一日平均患者数は、平成 28 年度から令和元年度までは、最大で前年度比 5%増減程度の推移であり、大きな変動はなかった。

オ) 令和 2 年度は、全国的な新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、入院患者数及び外来患者数が減少した。特に外来の一日平均患者数は、前年度比 11.1%減と大きな減少となった。

（資料 16）一日平均患者数の推移（単位：人）

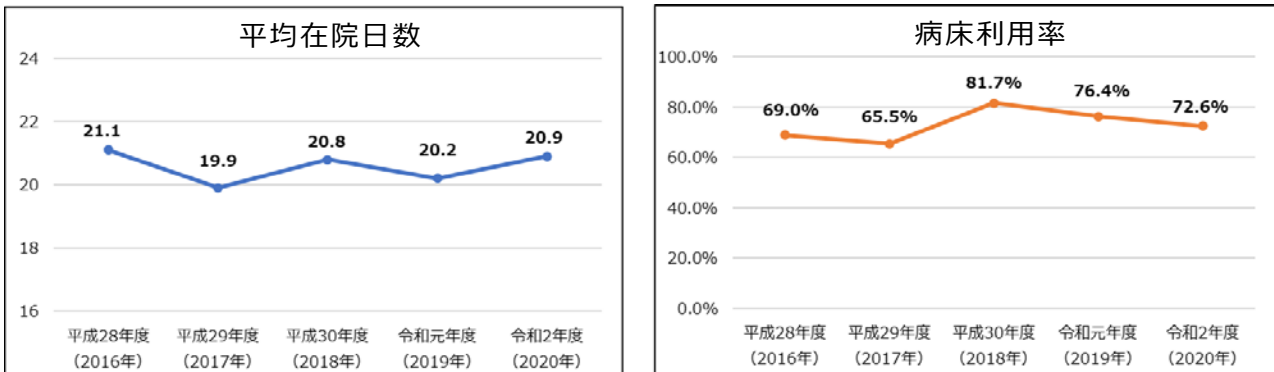


出典：北村山公立病院 病院決算書及び総務省病院経営分析比較表

Ⅱ. 平均在院日数及び病床利用率推移（資料 17）

- ア) 平均在院日数については、ほぼ横ばいで推移した。
- イ) 病床利用率は平成 29 年度まで 60%台で推移していたが、一部の病棟の休止により病床利用率は 70～80%台で推移した。
- ウ) 令和 2 年度は、全国的な新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、急性期患者の減少による平均在院日数の上昇と病床利用率の低下がみられた。

（資料 17）平均在院日数及び病床利用率の推移

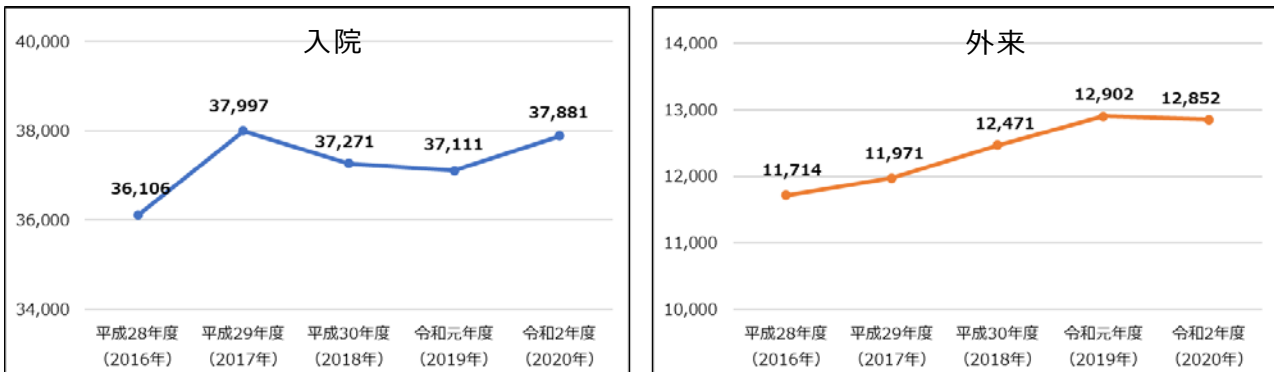


出典：北村山公立病院 病院決算書及び総務省病院経営分析比較表

Ⅲ. 診療単価の推移（資料 18）

- ア) 入院患者の平均診療単価は 36,000 円から 38,000 円の間で推移した。
- イ) 外来患者の平均診療単価は約 13,000 円まで上昇した。
- ウ) 令和 2 年度の平均診療単価は、入院・外来共に大きな変化はなく、新型コロナウイルス感染症の影響は見られなかった。入院患者の平均単価増の要因は、令和 2 年度の診療報酬改定時の救急医療に対する評価による入院料の増加及びリハビリテーション関連の収入増加である。

（資料 18）患者一人 1 日あたりの平均診療単価（入院/外来）



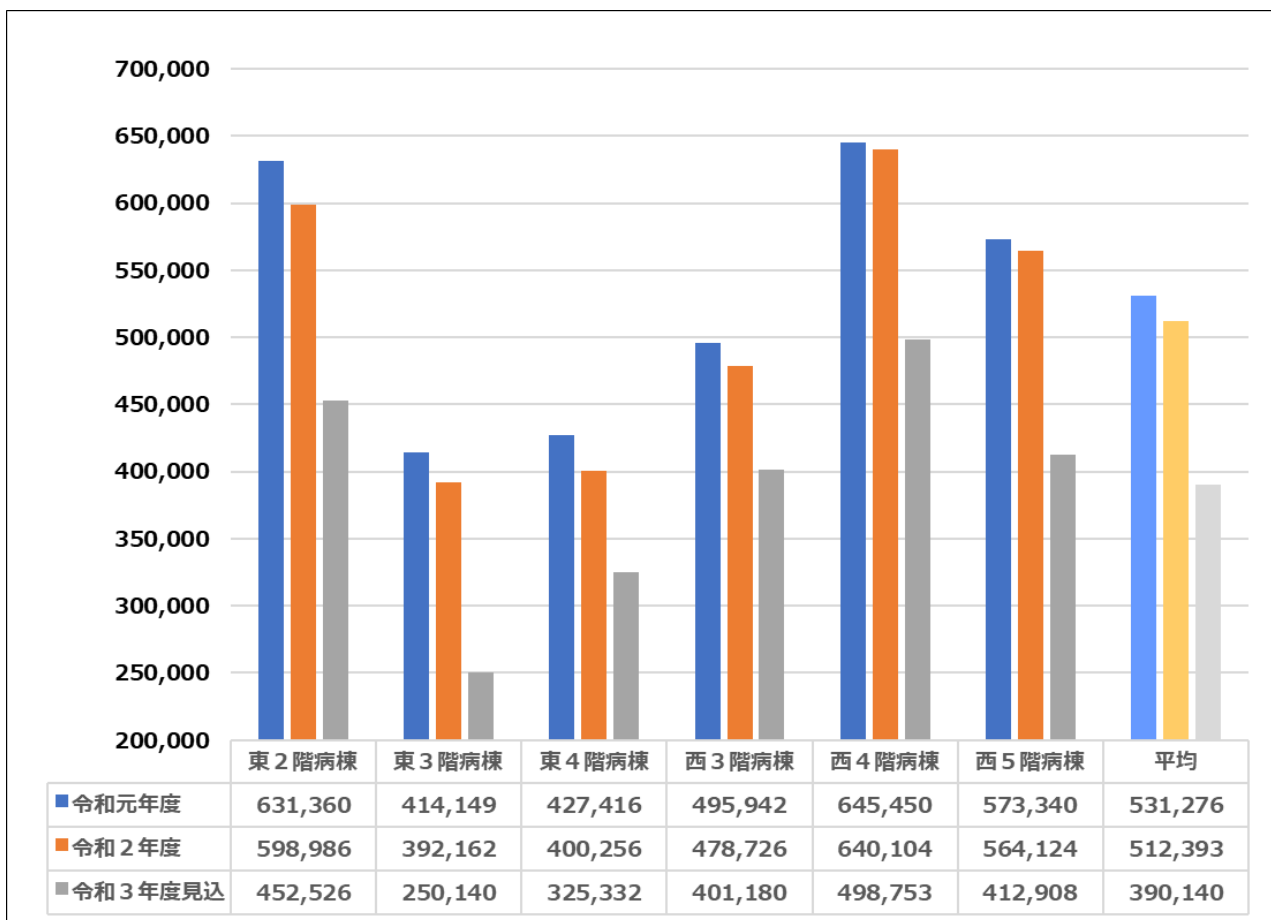
出典：北村山公立病院 病院決算書及び総務省病院経営分析比較表

③ 診療状況分析

I. 病棟

- ア) 許可病床 300 床のうち、東 5 階病棟の 30 床を休止し、平成 29 年 10 月より稼働病床は 270 床としている。
- イ) 東 4 階病棟は回復期リハビリテーション病棟で、それ以外は一般病床である。
- ウ) 東 3 階病棟の収入減は、新型コロナウイルス感染症対応のための病床確保による入院患者数減少によるものである。(資料 19)

(資料 19) 病棟別診療収入推移 (単位：千円)



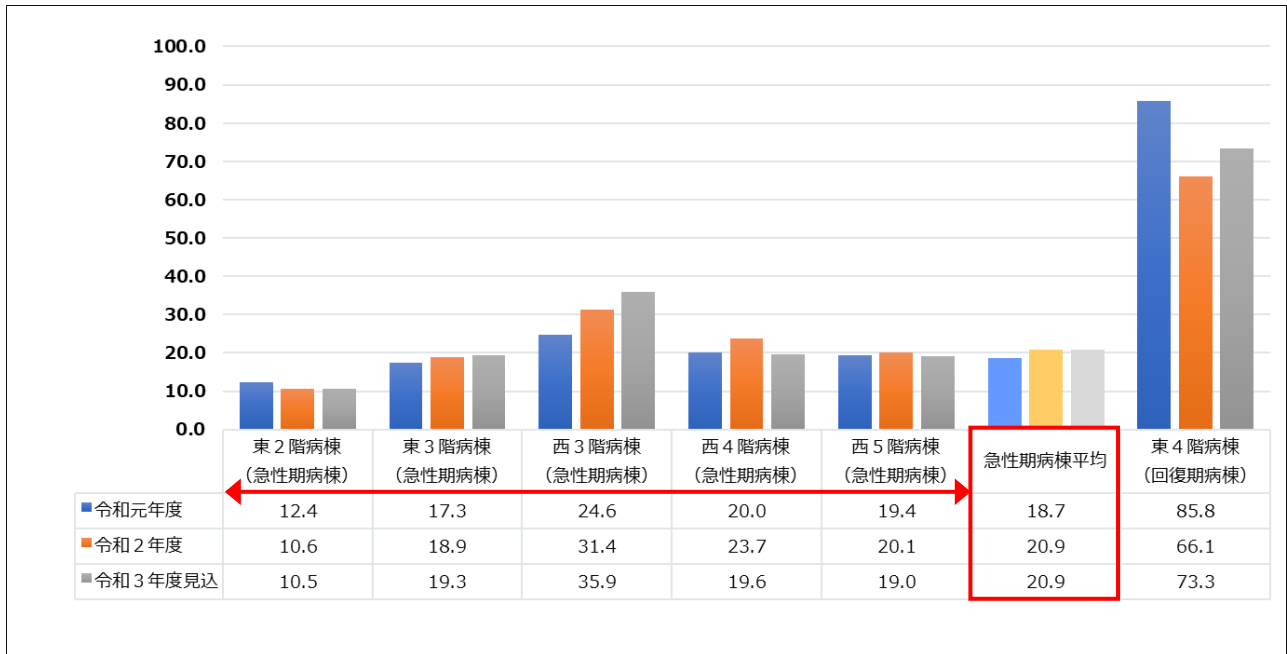
出典：院内資料より

※補足

令和 3 年度見込みは令和 3 年度の 4 月から 10 月までの実績データから推計したものである。

- 工) 西 3 階病棟は、6 床の特殊疾患の算定対象患者が入院していることにより平均在院日数が長くなった。
- オ) 東 2 階病棟以外の急性期病棟の平均在院日数は 20 日前後となっている。

(資料 20) 病棟別平均在院日数 (単位 : 日)



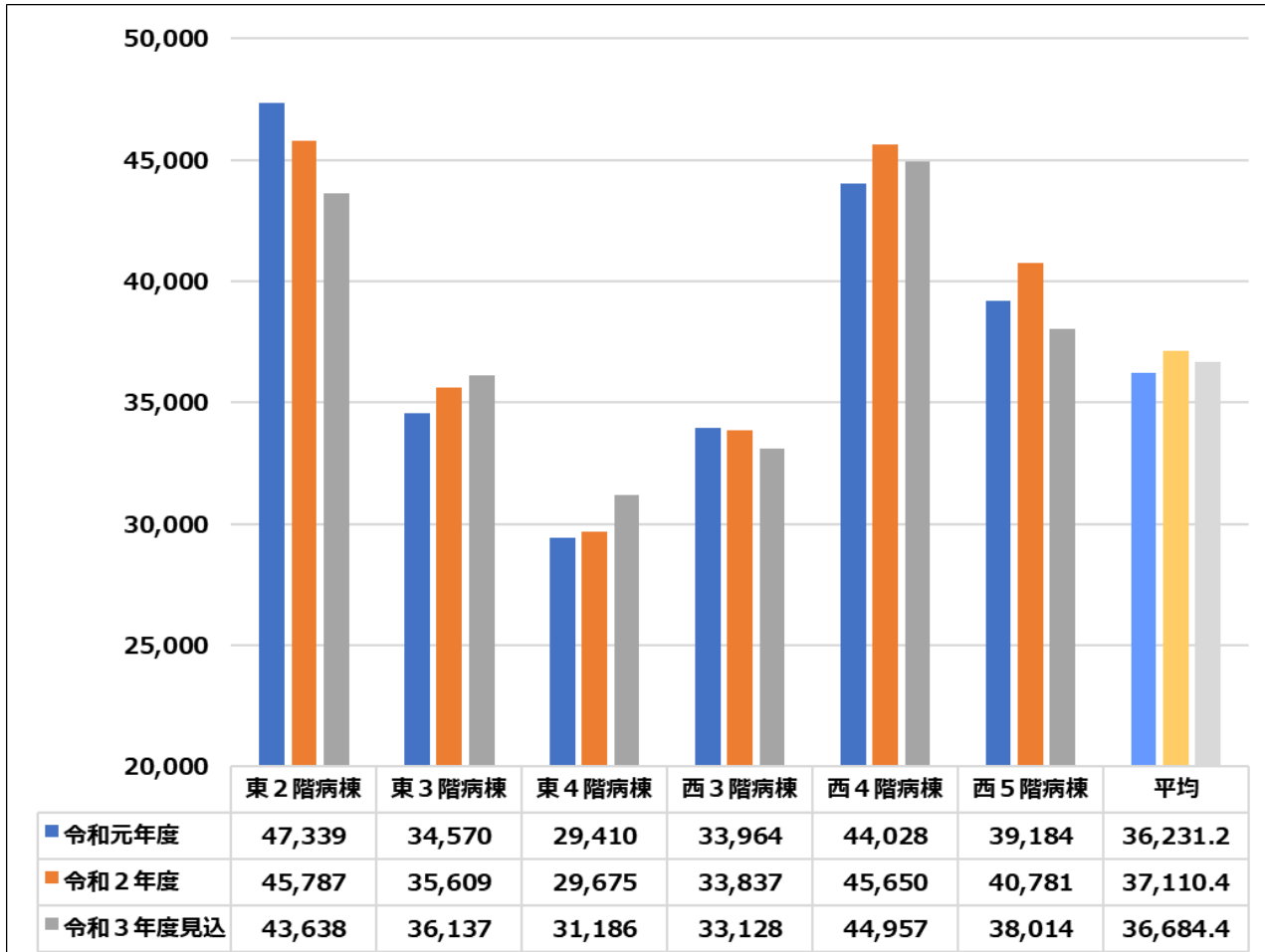
出典 : 院内資料より

※補足

令和 3 年度見込みは令和 3 年度の 4 月から 10 月までの実績データから推計したものである。

カ) 診療単価に関しては、特殊疾患患者が入院している西 3 階病棟、回復期リハの東 4 階病棟、手術件数や検査件数が多い東 2 階病棟と西 4 階病棟のように機能分担はできている。(資料 21)

(資料 21) 病棟別平均診療単価 (単位 : 円)



出典 : 院内資料より

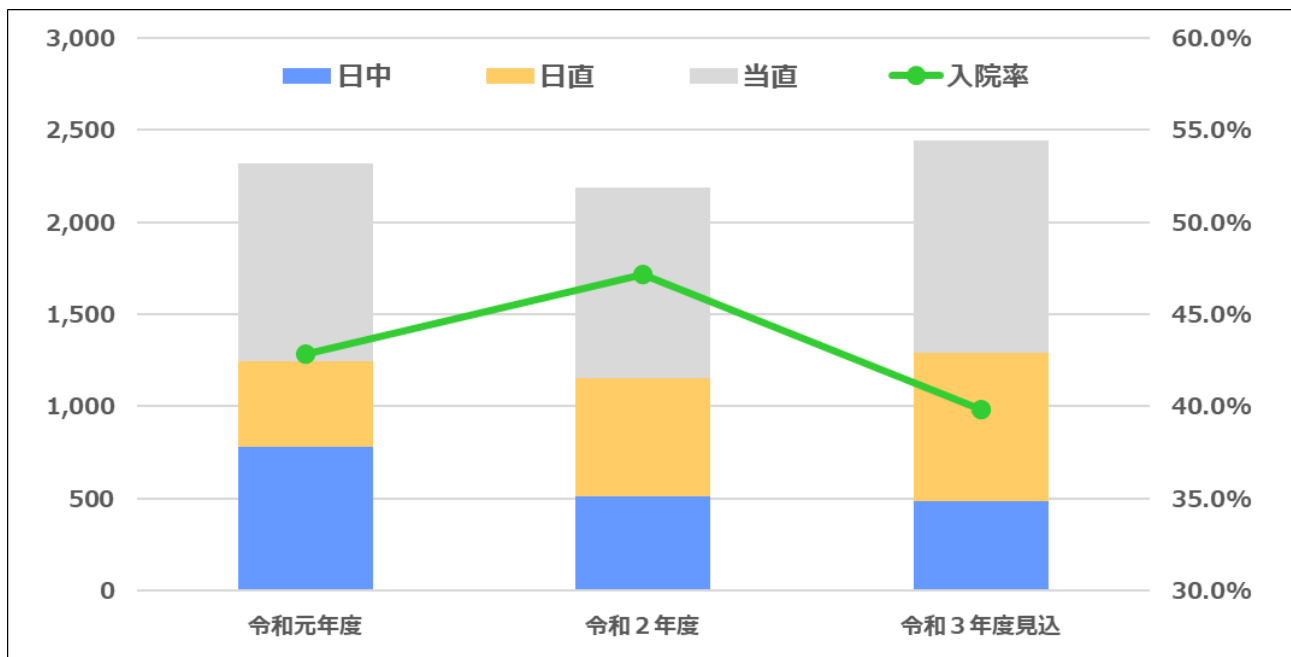
※補足

令和 3 年度見込みは令和 3 年度の 4 月から 10 月までの実績データから推計したものである。

Ⅱ. 救急

- ア) 1日あたりの救急車受入台数は6台～7台で推移している。当直時間帯の比率は3年間ほぼ横ばいの状態となっている。
- イ) 日中時間帯は令和元年度 33.5%、令和2年度 23.3%、令和3年度 19.8%と減少傾向であり、逆に日直時間帯は令和元年度 20.1%、令和2年度 29.5%、令和3年度 33.0%と増加傾向となっている。
- ウ) 令和3年度は、全国的な新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けており、特に他病院の救急車対応抑制の影響を受けたことで、軽症者が多くなり入院率が下がっている。(資料22)

(資料22) 当院における時間帯別救急車受入状況 (単位：件)



	令和元年度			令和2年度			令和3年度見込		
	年間	割合	1日あたり	年間	割合	1日あたり	年間	割合	1日あたり
日中	777	33.5%	3.2	510	23.3%	2.1	482	19.8%	2.0
日直	465	20.1%	3.9	645	29.5%	5.4	806	33.0%	6.7
当直	1,074	46.4%	2.9	1,031	47.2%	2.8	1,152	47.2%	3.2
合計	2,316	—	6.3	2,186	—	6.0	2,441	—	6.7
入院数	992			1,031			972		
入院率	42.8%			47.2%			39.8%		

出典：院内資料より

※補足

「日中」とは平日の診察時間内、「日直」とは休日における平日の診察時間内、「当直」とは平日及び休日の診察時間外とする。

令和3年度見込みは令和3年度の4月から8月までの実績データから推計したものである。

- 工) 救急車からの入院率は 39.8%、救急車以外の入院率は 9.1%となっている。(資料 23)
- オ) 外科の入院率が 39.3%と高い。内科、消化器内科、整形外科、泌尿器科は搬送件数に比べて入院率は 14~20%台と軽症比率が高くなっている。
- カ) 小児科の救急受入件数は多いが入院件数は 0 である。医師不足の影響によるものであり、今後の小児科の入院対応は検討課題となっている。

(資料 23) 北村山公立病院における令和 3 年度 (4 月~8 月) 時間帯別科目別受入状況

診療科	日中			日直			当直			計		
	受診者	入院	入院率	受診者	入院	入院率	受診者	入院	入院率	受診者	入院	入院率
内科・循環器内科・腎臓内科	350	96	27.4%	188	26	13.8%	404	64	15.8%	942	186	19.7%
消化器内科	93	34	36.6%	74	6	8.1%	161	21	13.0%	328	61	18.6%
脳神経内科	13	3	23.1%	3	0	0.0%	15	5	33.3%	31	8	25.8%
小児科	30	0	0.0%	329	0	0.0%	95	0	0.0%	454	0	0.0%
外科	44	16	36.4%	37	12	32.4%	130	55	42.3%	211	83	39.3%
整形外科	185	59		178	23		267	45	16.9%	630	127	20.2%
形成外科	26	0	0.0%	42	0	0.0%	99	0	0.0%	167	0	0.0%
脳神経外科	260	76	29.2%	126	24	19.0%	261	69	26.4%	647	169	26.1%
乳腺外科	0	0		0	0		4	1	25.0%	4	1	25.0%
皮膚科	13	0	0.0%	29	0	0.0%	76	0	0.0%	118	0	0.0%
泌尿器科	46	11	23.9%	30	2	6.7%	76	9	11.8%	152	22	14.5%
産婦人科	2	0	0.0%	3	0	0.0%	3	0	0.0%	8	0	0.0%
眼科	3	0	0.0%	1	0	0.0%	4	0	0.0%	8	0	0.0%
耳鼻いんこう科	9	0	0.0%	17	0	0.0%	59	1	1.7%	85	1	1.2%
リハビリテーション科	0	0		0	0		0	0				
放射線科	0	0		0	0		0	0				
麻酔科	0	0		1	0	0	1	0	0	2	0	0.0%
合計	1,074	295	27.5%	1,058	93	8.8%	1,655	270	16.3%	3,787	658	17.4%
救急車	201			336			480			1,017	405	39.8%
救急車以外	873			722			1,175			2,770	253	9.1%

出典：院内資料より

- キ) 北村山地域外、特に西村山地域や天童市からの救急車受入れが増えている。(資料 24)

(資料 24) 北村山公立病院における救急車の搬送消防一覧

搬送消防		令和元年度	令和2年度	令和3年度見込
北村山地域	東根市消防	1,045	906	953
	村山市消防	579	555	686
	尾花沢市消防	545	541	598
	小計	2,169	2,002	2,237
その他地域	西村山広域行政	97	124	125
	天童市消防	47	54	79
	山形市消防	1	5	2
	最上広域行政	2	1	0
	小計	147	184	206
合計		2,316	2,186	2,443

出典：院内資料より

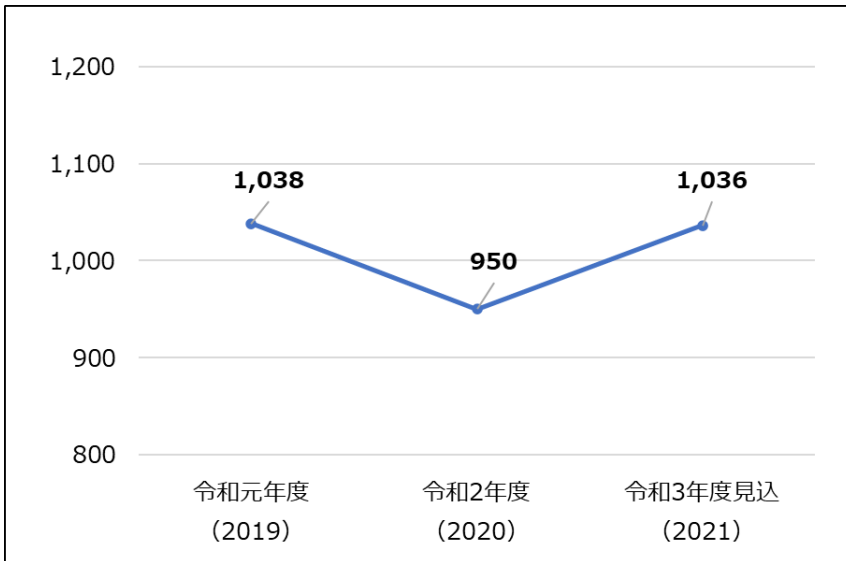
※補足：令和3年度見込みは令和3年度の4月から8月までの実績データから推計したものである。

Ⅲ. 手術

ア) 令和 2（2020）年度は、全国的な新型コロナウイルス感染拡大による入院患者数減に伴い、手術数は前年よりも減少した。

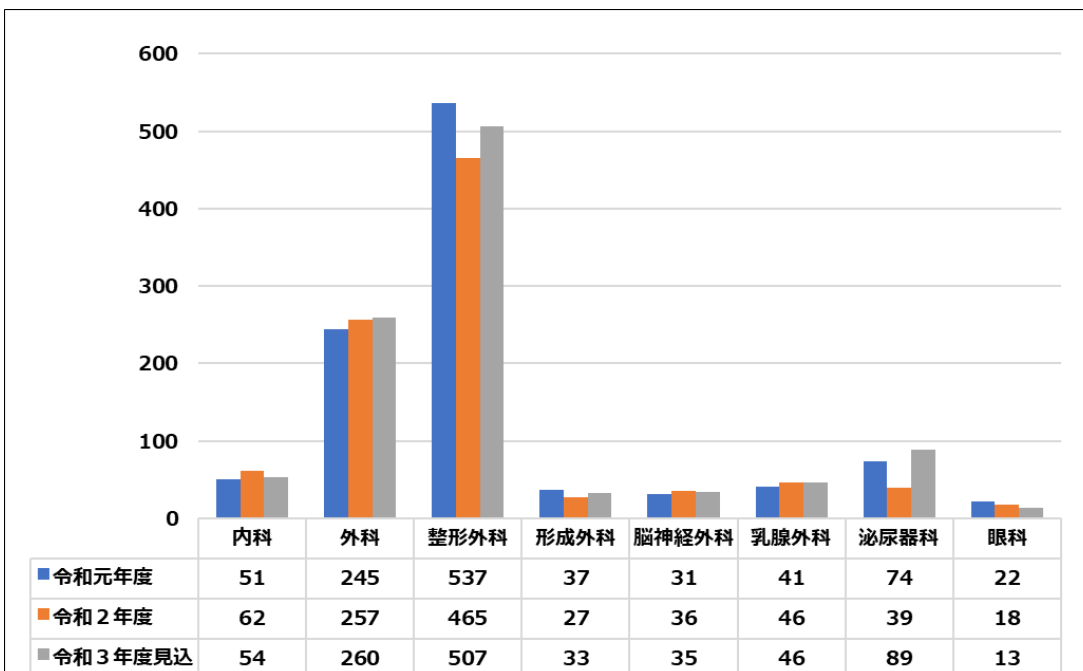
イ) 令和 3（2021）年度の手術件数は増加の見込みであり、各科とも新型コロナウイルス感染拡大前の水準に戻りつつある。（資料 25・26）

（資料 25）手術件数（全体）の推移



出典：院内資料より手術室にて手術を行った件数を集計

（資料 26）科目別手術件数



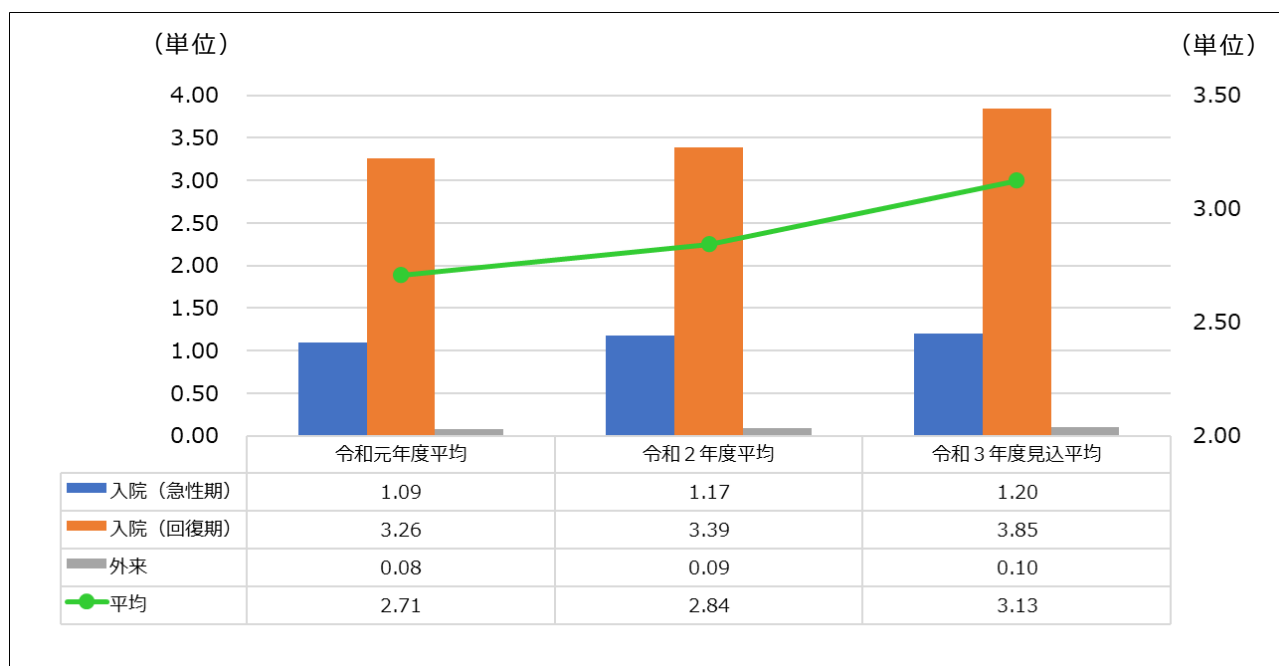
出典：院内資料より手術室にて手術を行った件数を集計

※補足：令和 3 年度見込みは令和 3 年度の 4 月から 10 月までの実績データから推計したものである。

Ⅳ. リハビリテーション

- ア) リハビリテーションは、急性期患者と回復期患者のリハビリテーションを行う院内完結型となっており、地域からの受入患者数を増やす必要がある。
- イ) 回復期リハビリテーション病棟の患者は、理学療法士（PT）、作業療法士（OT）、言語聴覚療法士（ST）合わせて、1日あたり2単位の実施が必須となっている。
- ウ) 急性期、回復期、外来も合わせて1日の患者1人あたりの平均単位数は年々増加しており、令和3年度は3.13単位となっている。
- エ) 回復期のリハビリテーションは、1日の患者1人あたり6単位を目標として取り組んでいる。
- オ) 急性期のリハビリテーションも継続して行いつつ、回復期のリハビリテーション患者の単位数増や、より収益性の高いリハビリテーションの実施を目指す必要がある。
- カ) 県内の病院で唯一、理学療法士が関わって、さくらんぼ東根温泉を活用した長時間保温効果とリラクゼーション効果の高いプール訓練を行っており、入院及び外来において、整形外科患者や早期に自宅復帰を目指す患者に有効に活用している。
- キ) プール訓練により、高齢者に多い脳血管疾患や骨折などの疾病に対応した脳血管疾患等リハビリテーションや運動器リハビリテーションをはじめ、急性期後のリハビリテーション機能が充実する。また、外来リハビリの適用としていない軽度の変形性膝関節症患者がプール訓練を行うことで重症化を防ぐことができる。

（資料 27）1日の患者1人あたりのリハビリテーション単位数の推移（入院・外来別）



出典：院内資料より

※補足

リハビリテーション料は患者1人に対し、20分を1単位として診療報酬に定められている。

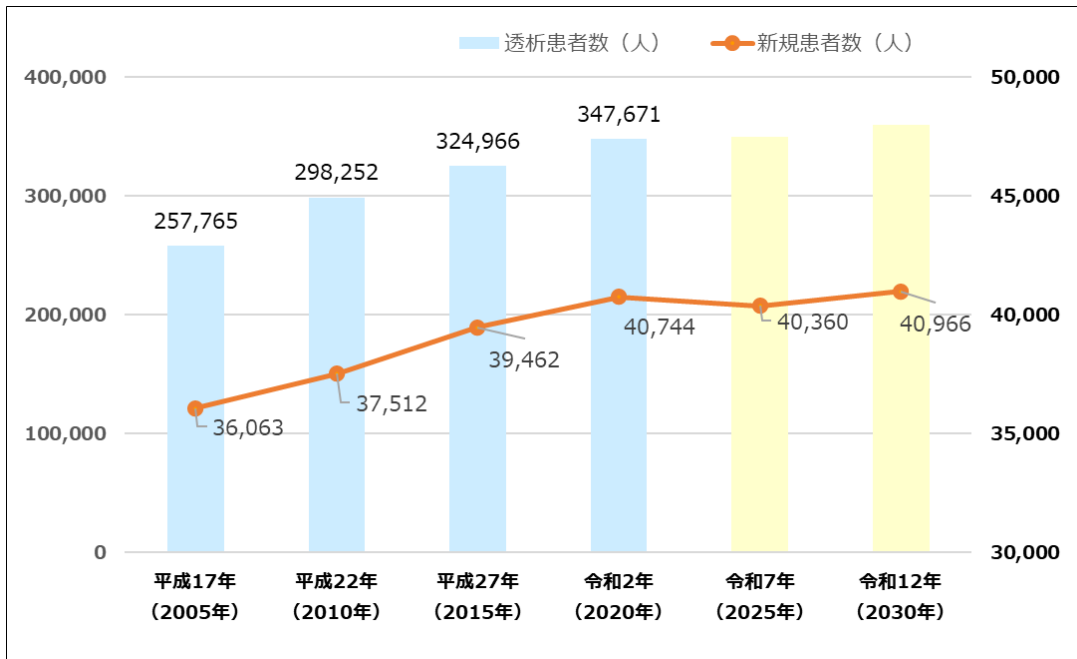
V. 人工透析

ア) 高齢化による糖尿病及び高血圧の患者数の増加により、新規透析患者数は高齢人口に比例して現状と同等で推移すると見込まれることから、透析患者の総数は当面減少傾向に転じないと予測されている。

(資料 28)

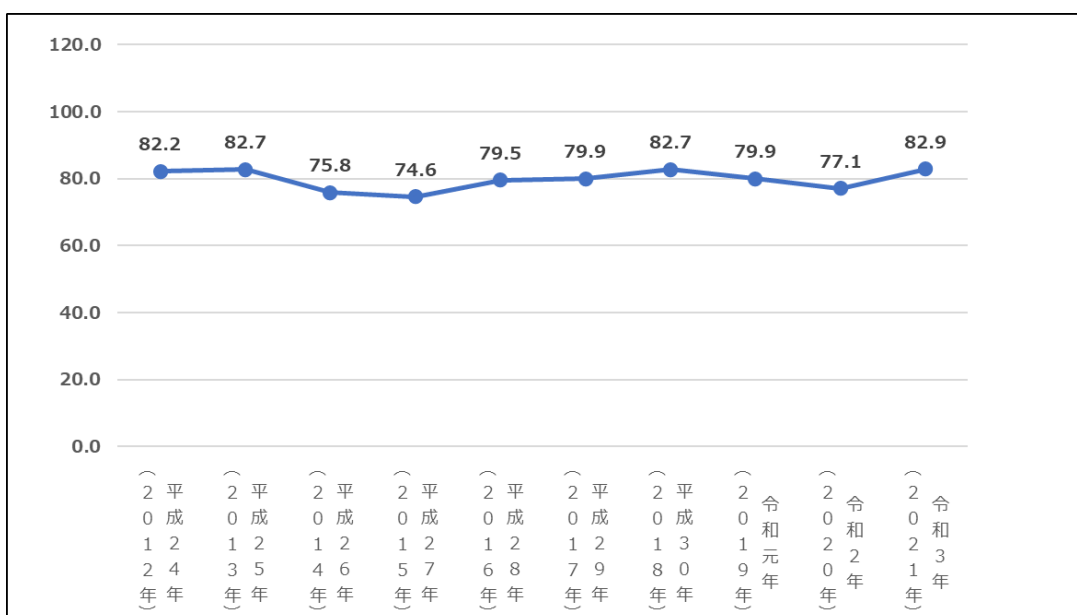
イ) 当院の人工透析の週の患者数は、外来患者を中心に合計して 80 人前後で推移している。(資料 29)

(資料 28) 全国の透析患者数及び年間新規透析患者数の推移及び推計 (単位：人)



出典：日本透析医学会集計データ及び論文「慢性腎臓病 (CKD) 対策の評価」より

(資料 29) 北村山公立病院の透析患者数推移 (年間平均患者数 (単位：人))



出典：院内資料より

④病院の課題

ア) 施設の老朽化

当院の病棟部分の建物の半分は築 48 年を経過しており、これまで増築及び改築を繰り返し行いながら、診療機能の維持、改善を図ってきた。しかしながら、耐用年数を超過した給排水設備、電気設備、冷暖房関連設備等の不具合の発生頻度が多くなり、診療に支障が生じることが懸念されている。

また、異常気象や地震などの災害、感染症への対応など、地域の基幹病院として緊急時の対応にも的確に医療を提供できる体制の整備が求められている。

イ) 患者減少に伴う財政悪化の懸念

医師や看護師の人員不足による稼働病床数減に伴う患者数減少が、医業収益の減少の要因となっている環境下においても、限られた稼働病床数の中で病床利用率の向上を推進し、収支改善に取り組んでいる。新病院建設は財政負担を伴う大規模事業となるため、効率的な医療資源の配分により、病院経営や構成市町にとって適正な事業規模となるように検討していく必要がある。

ウ) 医師不足による医療水準の低下への懸念

臨床研修制度による派遣元の大学医局の人員不足により、医師派遣の停滞や引き揚げが行われ、ピーク時 38 名であった常勤医師数は令和 4 年 1 月現在 21 名へと減少している。そのため、外来では非常勤医師による診療を行っている診療科も多く、入院対応が困難な状況となっている。入院患者数減は手術件数減等の要因となり、北村山地域の医療水準の低下が懸念される。診療体制の確保のため、常勤医師の増員が必須である。

エ) 看護師の確保、高齢化に対する懸念

看護師不足は、病棟稼働に大きく影響し病院の収益に直結する。令和元年度の看護師の平均年齢は 41.3 歳となっている。類似施設の平均は 39.3 歳であり、高齢化が懸念される。修学資金貸与制度による新規職員を確保と、在職中の職員のモチベーションを上げて、引き続き働きやすい環境作りを引き続き行う必要がある。

オ) リハビリテーションの充実、収益性の検討

当院は同一施設内で急性期から回復期までのリハビリテーションを行う病院完結型施設である。急性期から回復期に至る継ぎ目のないリハビリテーションを含めた計画的な治療を行うことで、良好な機能改善を獲得し、在宅復帰率の向上が期待できる。退院後は、自宅から通院しながらリハビリテーションを行うことで、自立した生活や職場復帰を支援することができる。

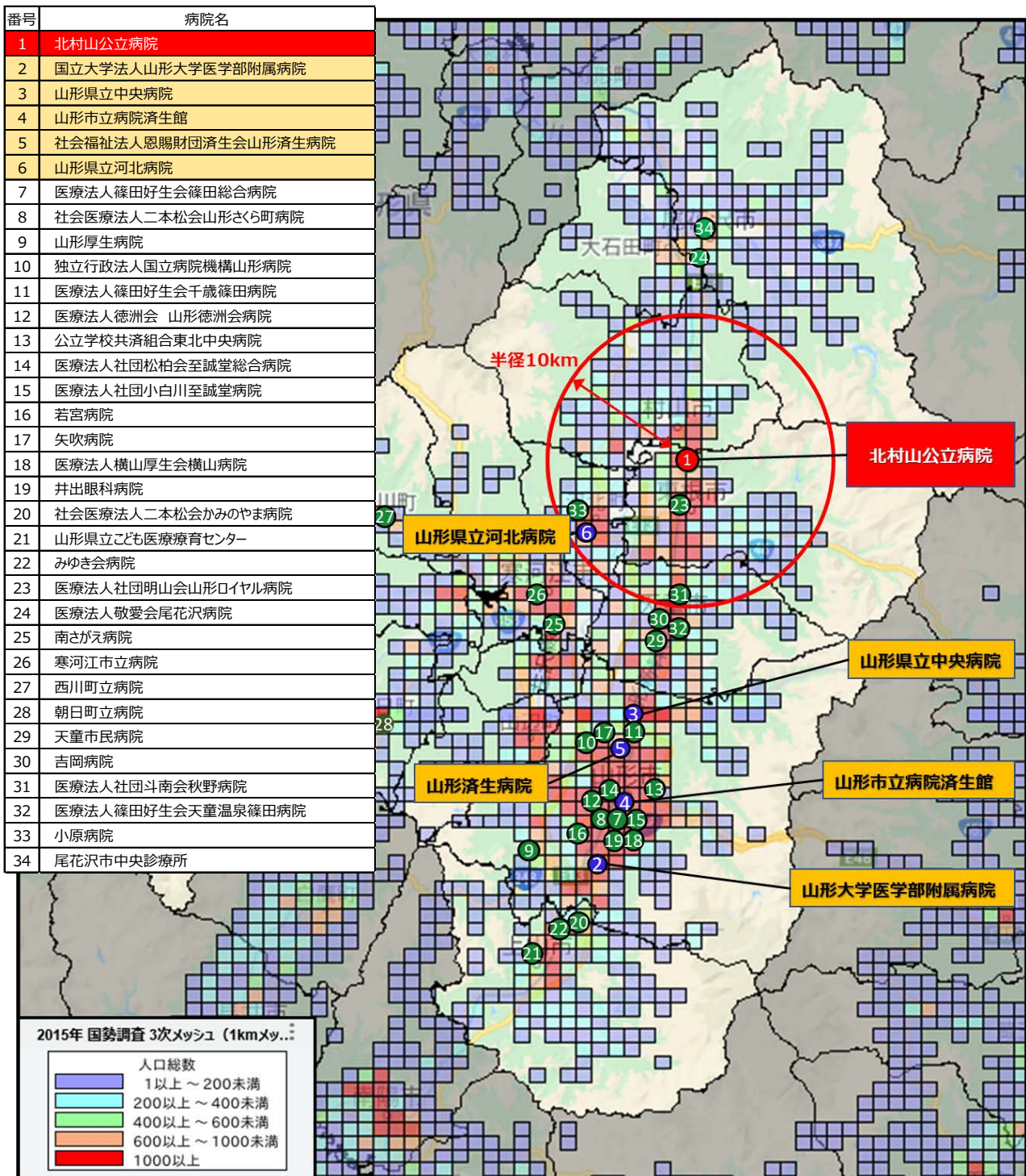
今後は入院だけでなく外来リハビリテーションについてもさらなる充実を図り、診療報酬に対応した収益性も考慮したリハビリテーション提供体制の検討を行う必要がある。

(3) 医療環境・地域医療体制の分析

① 村山二次医療圏内の病院状況

ア) 村山二次医療圏は、山形県内の中心に位置し、山形大学附属病院や山形県立中央病院等、多くの高度急性期医療機関がある。(資料 30)

(資料 30) 村山二次医療圏の病院施設と人口メッシュ



出典：2015年国勢調査を元に「政府統計窓口（e-Stat）」にて人口メッシュ図を作成

イ) 北村山地域の一般病床を有する病院は北村山公立病院のみであり、地域の急性期医療を支える役割を担っている。(資料 31-1)

(資料 31-1) 村山二次医療圏の病院一覧(病床状況)

	病院名	所在	病床数				
			計	一般	療養	精神	感染
1	国立大学法人山形大学医学部附属病院	山形市	637	601		36	
2	山形県立中央病院	山形市	609	607			2
3	山形市立病院済生館	山形市	528	528			
4	社会福祉法人恩賜財団済生会山形済生病院	山形市	473	473			
5	医療法人篠田好生会篠田総合病院	山形市	383	223	160		
6	社会医療法人二本松会山形さくら町病院	山形市	339			339	
7	山形厚生病院	山形市	312			312	
8	独立行政法人国立病院機構山形病院	山形市	300	300			
9	医療法人篠田好生会千歳篠田病院	山形市	300			300	
10	医療法人徳洲会 山形徳洲会病院	山形市	289	199	90		
11	公立学校共済組合東北中央病院	山形市	252	252			
12	医療法人社団松柏会至誠堂総合病院	山形市	230	230			
13	医療法人社団小白川至誠堂病院	山形市	148	98	50		
14	若宮病院	山形市	113			113	
15	矢吹病院	山形市	40	40			
16	医療法人横山厚生会横山病院	山形市	30	30			
17	井出眼科病院 山形市	山形市	26	26			
18	社会医療法人二本松会かみのやま病院	上山市	354			354	
19	北村山公立病院	東根市	300	300			
20	医療法人社団明山会山形ロイヤル病院	東根市	322		322		
21	医療法人敬愛会尾花沢病院	尾花沢市	152		26	126	
22	山形県立こども医療療育センター	上山市	60	60			
23	みゆき会病院	上山市	183	93	90		
24	南さがえ病院	寒河江市	130			130	
25	寒河江市立病院	寒河江市	98	56	42		
26	西川町立病院	西川町	43	43			
27	朝日町立病院	朝日町	50	50			
28	天童市民病院	天童市	84	54	30		
29	吉岡病院	天童市	126	78	48		
30	医療法人社団斗南会秋野病院	天童市	226			226	
31	医療法人篠田好生会天童温泉篠田病院	天童市	124	64		60	
32	小原病院	河北町	176			176	
33	山形県立河北病院	河北町	176	170			6

出典：病院情報局ホームページ、東北厚生局届出一覧、各病院ホームページより

ウ) 救命救急、がん、脳卒中及び心筋梗塞に関して一定の役割を担う一方、周産期と小児救急が希薄になっている。(資料 31-2)

(資料 31-2) 村山二次医療圏の病院一覧：病院機能

	病院名	所在	DPC参加	機能評価	臨床研修	救命救急	周産期	がん治療	災害拠点	脳卒中急性期	心筋梗塞	小児救急
1	国立大学法人山形大学医学部附属病院	山形市	2003	○	○	○	地域	地域		○	○	中核
2	山形県立中央病院	山形市	2008	○	○	○	総合	県	基幹	○	○	地域
3	山形市立病院済生館	山形市	2008	○	○	△	地域	地域	地域	○	○	地域
4	社会福祉法人恩賜財団済生会山形済生病院	山形市	2006	○	○	二次	二次	○	地域			
5	医療法人篠田好生会篠田総合病院	山形市		○	協力	二次		○		○	○	
6	社会医療法人二本松会山形さくら町病院	山形市			協力							
7	山形厚生病院	山形市										
8	独立行政法人国立病院機構山形病院	山形市		○	協力							
9	医療法人篠田好生会千歳篠田病院	山形市			協力							
10	医療法人徳洲会 山形徳洲会病院	山形市				二次				○		
11	公立学校共済組合東北中央病院	山形市	2009	○	協力	二次		○			○	
12	医療法人社団松柏会至誠堂総合病院	山形市		○		二次		○				
13	医療法人社団小白川至誠堂病院	山形市				二次		○			○	
14	若宮病院	山形市										
15	矢吹病院	山形市										
16	医療法人横山厚生会横山病院	山形市					一次					
17	井出眼科病院 山形市	山形市										
18	社会医療法人二本松会かみのやま病院	上山市										
19	北村山公立病院	東根市	2009準備		協力	二次	一次	○		○	○	一般
20	医療法人社団明山会山形ロイヤル病院	東根市										
21	医療法人敬愛会尾花沢病院	尾花沢市		○								
22	山形県立こども医療療育センター	上山市										
23	みゆき会病院	上山市	2016準備	○	協力	二次						
24	南さがえ病院	寒河江市										
25	寒河江市立病院	寒河江市			協力	二次		○				
26	西川町立病院	西川町				二次		○				
27	朝日町立病院	朝日町				二次		○				
28	天童市民病院	天童市				二次	一次	○				一般
29	吉岡病院	天童市				二次						
30	医療法人社団斗南会秋野病院	天童市			協力							
31	医療法人篠田好生会天童温泉篠田病院	天童市				二次		○				
32	小原病院	河北町										
33	山形県立河北病院	河北町	2009	○	協力	二次		○				一般

出典：病院情報局ホームページ、東北厚生局届出一覧、各病院ホームページより

工) 村山二次医療圏の北部には重症管理機能の病床を持っている施設がない。急性期病院として、HCU
 又は SCU の整備を計画する場合には、設備工事や医療機器の整備、人材確保等が検討項目となる。
 (資料 31-3)

(資料 31-3) 村山二次医療圏の病院一覧 (特定入院料)

病院名	所在	特定入院料病床の有無										
		救命	ICU	HCU	SCU	NICU	GCU	PICU	小児	地域 包括ケア	回復期 リハ	緩和
1 国立大学法人山形大学医学部附属病院	山形市		○	○		○	○		○			
2 山形県立中央病院	山形市	○	○			○	○	○	○			○
3 山形市立病院済生館	山形市			○					○			
4 社会福祉法人恩賜財団済生会山形済生病院	山形市			○		○					○	○
5 医療法人篠田好生会篠田総合病院	山形市										○	
6 社会医療法人二本松会山形さくら町病院	山形市											
7 山形厚生病院	山形市											
8 独立行政法人国立病院機構山形病院	山形市											
9 医療法人篠田好生会千歳篠田病院	山形市											
10 医療法人徳洲会 山形徳洲会病院	山形市											
11 公立学校共済組合東北中央病院	山形市										○	
12 医療法人社団松柏会至誠堂総合病院	山形市										○	○
13 医療法人社団小白川至誠堂病院	山形市										○	
14 若宮病院	山形市											
15 矢吹病院	山形市											
16 医療法人横山厚生会横山病院	山形市											
17 井出眼科病院 山形市	山形市											
18 社会医療法人二本松会かみのやま病院	上山市											
19 北村山公立病院	東根市										○	
20 医療法人社団明山会山形ロイヤル病院	東根市											
21 医療法人敬愛会尾花沢病院	尾花沢市											
22 山形県立こども医療療育センター	上山市								○			
23 みゆき会病院	上山市										○	○
24 南さがえ病院	寒河江市											
25 寒河江市立病院	寒河江市										○	
26 西川町立病院	西川町										○	
27 朝日町立病院	朝日町										○	
28 天童市民病院	天童市										○	
29 吉岡病院	天童市											○
30 医療法人社団斗南会秋野病院	天童市											
31 医療法人篠田好生会天童温泉篠田病院	天童市										○	
32 小原病院	河北町											
33 山形県立河北病院	河北町										○	○

【補足】 ICU：集中治療室のこと。救命救急に必要な設備、人材で管理する高度な施設
 HCU：高度治療室のこと。ICUよりも重症度は低い幅広い症状に対応が必要
 SCU：脳血管疾患を中心とした患者様を治療・看護する施設
 NICU：新生児集中治療室のこと。超低体重時や病気の治療が必要な乳児用のICU
 GCU：新生児回復室のこと
 PICU：小児集中治療室のこと

出典：病院情報局ホームページ、東北厚生局届出一覧、各病院ホームページより

(4) 地域医療機関との連携

① 近隣市町の医療機関との連携

ア) 他医療機関等からの患者紹介の施設機能別患者紹介件数では、診療所・開業医が73.0%と大部分を占めているが、介護施設や歯科とも連携を行うなど、施設間連携として年間約5,000件超の紹介を受けている。今後も更なる連携強化により、増加が見込まれる。(資料32)

(資料32) 令和2年度施設機能別患者紹介件数

区分	件数	割合
診療所・開業医	3,806	73.0%
病院	813	15.6%
施設	585	11.2%
歯科	11	0.2%
合計	5,215	

出典：院内資料より

イ) 市町村別患者紹介件数では、北村山地域内のみならず、山形市、天童市、河北町などからの紹介も多数あることから、北村山公立病院が北村山地域の基幹病院として機能しているだけでなく、県全体の医療体制の中でも重要な役割を果たしていることが分かる。今後も他地域との連携が増えることが見込まれる。(資料33)

(資料33) 令和2年度市町村別患者紹介件数

市町村名	件数	割合
東根市	2,016	38.7%
村山市	1,655	31.7%
尾花沢市	497	9.5%
大石田町	207	4.0%
山形市	516	9.9%
天童市	101	1.9%
河北町	103	2.0%
その他県内	81	1.6%
県外	39	0.7%
総計	5,215	

出典：院内資料より

ウ) 診療科目別患者紹介件数では、令和 2 年度の実績が、前年度実績を下回っているが、新型コロナウイルス感染症の拡大による影響と考えられる。紹介件数が特に多い診療科は、内科・循環器内科・腎臓内科、消化器内科、整形外科、放射線科となっているが、他の診療科においても紹介が進んでいる。今後も患者に円滑な医療を提供できるように、更なる連携をおこなっていく必要がある。(資料 34)

(資料 34) 診療科別患者紹介件数

診療科	令和元年度	令和 2 年度	増減
内科・循環器内科・腎臓内科	1,289	1,241	-48
消化器内科	1,165	962	-203
脳神経内科	260	167	-93
小児科	11	3	-8
外科	0	234	234
整形外科	560	712	152
形成外科	70	59	-11
脳神経外科	414	387	-27
乳腺外科	126	121	-5
皮膚科	18	16	-2
泌尿器科	274	273	-1
産婦人科	48	43	-5
眼科	66	63	-3
耳鼻いんこう科	102	108	6
リハビリテーション科	0	8	8
放射線科	871	807	-64
麻酔科	22	11	-11
合 計	5,296	5,215	-81

出典：病院資料より

②北村山地域の医療機関との連携

- ア) 北村山地域において、一般病床を有するのは、北村山公立病院（300床）と尾花沢市中央診療所（19床）のみとなっている。尾花沢市中央診療所については、診療所でありながら、実際には病院と同等の役割を地域で果たしている。
- イ) 北村山地域における両施設の位置を見ると（2ページ 資料1）、北村山公立病院は同地域の南側に位置し、尾花沢市中央診療所は北側に位置しており、北村山全域に医療サービスを提供することを考えた場合に、バランスの取れた所に立地している。
- ウ) 両施設の診療体制については下記のとおりであるが、今後さらに連携を強化し、役割分担を明確にすることで、北村山地域の人口の減少及び高齢化などにも対応できるように、かつ、質の高い医療サービスを住民に提供できるようにすることが求められている。
- エ) 今後、県でまとめた「山形県地域医療構想」に沿って病院機能等の適正化を進めていくことが求められているが、北村山地域においても、地域全体を俯瞰した医療提供体制の検討をおこなう必要がある。

【北村山公立病院】

診療科 (19科)	内科、循環器内科、腎臓内科、消化器内科、脳神経内科、小児科、外科、 整形外科、形成外科、脳神経外科、乳腺外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、 眼科、耳鼻いんこう科、リハビリテーション科、放射線科、麻酔科
病床数	300床（急性期 252床、回復期 48床）
医師数	21人

（令和4年1月1日現在）

【尾花沢市中央診療所】

診療科 (3科)	内科、外科、消化器内科
病床数	19床
医師数	1人

(5) ベンチマーク

① 基本データ

ア) 抽出条件：一般病床 250～350 床の公立病院のうち経常収支比率 100 以上の病院。

イ) 青表示欄は、施設の大規模増改築を行った年を記載している。

(資料 35-1) ベンチマークの基本データ

地域	山形県	東京都	石川県	福井県	三重県	京都府	広島県	福岡県	熊本県	大分県
病院名	北村山 公立病院	稲城 市立病院	小松 市民病院	市立 敦賀病院	松阪 市民病院	福知山 市民病院	市立三次 中央病院	田川 市立病院	荒尾 市民病院	中津 市民病院
(1) 施設及び業務概況に関する調										
1. 事業開始年	昭和37年	昭和21年	昭和25年	昭和24年	昭和21年	平成5年	昭和27年	昭和24年	昭和24年	平成12年
直近の病院大規模増改築年	平成4年	平成10年	平成2年	平成18年	平成6年	平成19年	平成6年	平成11年	昭和43年 (令和5年)	平成24年
5. 指定管理者制度	無	無	無	無	無	無	無	無	無	無
(2) 病床数										
ア. 一般病床	300	290	300	330	326	344	350	334	270	250
イ. 療養病床	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ウ. 結核病床	-	-	10	-	-	6	-	-	-	-
エ. 精神病床	-	-	26	-	-	-	-	-	-	-
オ. 感染症病床	-	-	4	2	2	4	-	8	4	-
カ. 計	300	290	340	332	328	354	350	342	274	250
(4) 病院施設延面積										
ア. 鉄骨鉄筋又はコンクリート造 (m ²)	23,099	22,057	31,219	30,092	24,379	32,284	23,120	23,810	19,452	21,021
1床当たり面積	77	76	104	91	75	94	66	71	72	84
(6) 救急病棟の告示										
イ. 告示病床数	3	5	13	20	11	10	12	24	18	10
ウ. 救命救急センター病床数	-	-	-	-	-	10	-	-	-	-
7. 業務										
(1) 看護の基準	10 : 1	7 : 1	7 : 1	10 : 1	7 : 1	7 : 1	10 : 1	7 : 1	7 : 1	7 : 1
(2) 1日平均患者数 (人)										
ア. 1日平均入院患者数	229	202	249	249	290	315	279	183	226	252
イ. 1日平均外来患者数	414	638	747	699	579	980	702	416	351	284
ウ. 計	643	840	996	948	869	1,295	981	599	577	536
外来/入院比率	1.8	3.2	3.0	2.8	2.0	3.1	2.5	2.3	1.6	1.1
8. 職員数 (人)										
(1) 計	317	319	516	507	686	592	507	370	393	435
100床当たり職員数	105.7	110.0	151.8	152.7	209.1	167.2	144.9	108.2	143.4	174.0
(2) 損益計算書										
1. 総収益	5,288,826	7,141,844	8,429,387	8,194,327	10,804,380	14,590,794	8,817,101	5,861,350	6,248,063	7,717,192
(1) 医業収益	4,865,851	6,184,878	7,668,286	7,243,453	10,105,382	12,219,667	8,220,030	5,065,398	5,917,728	7,326,642
ア. 入院収益	3,112,626	3,606,651	4,713,817	4,374,575	5,871,052	7,334,082	5,063,091	3,208,453	3,933,442	5,269,173
イ. 外来収益	1,288,595	1,723,202	2,657,209	2,178,431	4,011,862	4,071,487	2,769,627	1,630,307	1,610,441	1,873,714
ウ. その他医業収益	464,630	855,025	297,260	690,447	222,468	814,098	387,312	226,638	373,845	183,755
(ア) 他会計負担金	292,189	281,320	54,961	336,593	70,289	236,651	41,220	110,734	228,764	49,870
(イ) 室料差額収益	39,343	112,531	80,944	68,969	75,827	166,423	39,792	48,168	11,803	54,024
職員1人当たり医業収入	16,684	22,388	16,336	16,162	15,750	24,647	17,391	15,841	15,898	17,741
(2) 医業外収益	422,975	951,474	748,049	950,084	698,998	1,044,350	596,606	554,935	328,405	388,248
(3) 特別利益	-	5,492	13,052	790	-	1,326,777	465	241,017	1,930	2,302
対医業収入比率										
2. 総費用	112.7%	115.8%	109.6%	109.1%	106.0%	108.0%	106.0%	112.3%	105.5%	105.2%
(1) 医業費用	107.9%	110.6%	104.7%	102.7%	99.2%	101.1%	100.8%	105.4%	102.0%	100.3%
ア. 職員給与費	54.4%	64.2%	54.6%	49.2%	45.9%	42.0%	51.7%	56.4%	52.7%	47.7%
イ. 材料費	17.8%	16.5%	26.6%	21.6%	35.8%	27.4%	26.5%	19.3%	22.5%	27.4%
ウ. 減価償却費	7.2%	6.1%	6.6%	7.4%	5.0%	8.4%	6.4%	5.4%	4.2%	7.3%
エ. 経費	28.4%	23.5%	16.4%	23.7%	11.6%	22.8%	15.5%	23.7%	22.2%	17.5%
オ. 研究研修費	0.1%	0.2%	0.3%	0.6%	0.5%	0.4%	0.6%	0.4%	0.3%	0.4%
カ. 資産減耗費	0.1%	0.1%	0.2%	0.1%	0.4%	0.1%	0.1%	0.2%	0.0%	0.0%
職員1人当たり医業費用	16,569	21,443	15,567	14,666	14,617	20,876	16,349	14,434	15,354	16,900
(2) 医業外費用	233,207	294,594	375,749	424,044	643,064	801,124	409,019	271,089	208,134	335,488
(3) 特別損失	-	27,946	-	43,539	45,798	39,348	15,840	75,924	3,267	23,929
8. 経常収支比率	96	100	100	104	101	101	101	100	100	100
9. 医業収支比率	93	90	96	97	101	99	99	95	98	100

出典：公営企業年鑑令和元年版より

②機能比較

(資料 35-2) ベンチマークの基本データ

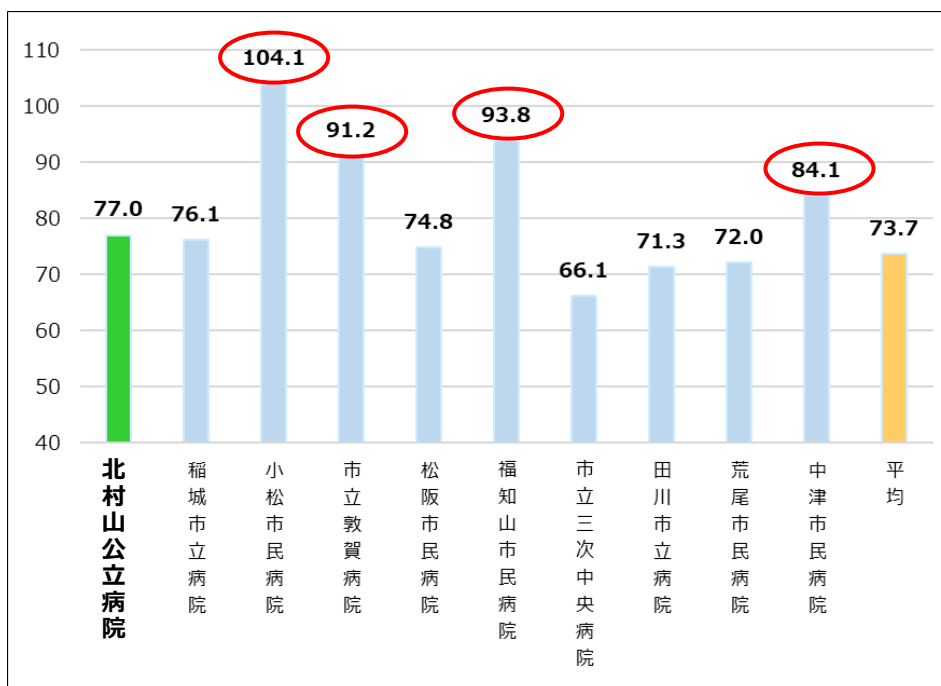
地域	山形県	東京都	石川県	福井県	三重県	京都府	広島県	福岡県	熊本県	大分県	
病院名	北村山公立病院	稲城市立病院	小松市民病院	市立敦賀病院	松阪市民病院	福知山市民病院	市立三次中央病院	田川市立病院	荒尾市民病院	中津市民病院	
DPC参加	平成21年準備	平成21年	平成21年	平成23年	平成20年	平成21年	平成21年	平成26年	平成21年	平成20年	
機能評価		○	○	○		○		○	○		
臨床研修	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
救命救急医療	二次	二次	○	二次	○	三次	二次	○	○	二次	
周産期医療	一次		○	地域		地域	地域	○	地域	地域	
がん拠点病院(基幹・地域)			地域			地域	地域		地域	地域	
災害拠点病院(基幹・地域)		地域	地域	地域	地域	地域	地域	地域	地域	地域	
脳卒中急性期	一次		一次	一次		一次	一次		○		
心筋梗塞	○		○		○	○	○		拠点病院		
小児救急	初期		地域				拠点			地域	
特定入院料病床の有無	救命救急		0			10	26			10	
	ICU		0				③4				
	HCU			①12	①6	②5		①6	①18	①4	
	SCU		0								
	NICU			0						3	
	GCU										
	PICU										
	小児入院医療管理料病床		④15	④10	④		④17	④	④10	⑤	③31
	地域包括ケア病棟(病床)			0	②71	②39		②53	②45		②46
	回復リハビリテーション病棟	③48		0			①44			①40	
緩和ケア病床			①10		②20					②12	

出典：病院情報局ホームページ、各厚生局届出一覧、各病院ホームページ、他

③ベンチマーク(グラフによる比較)

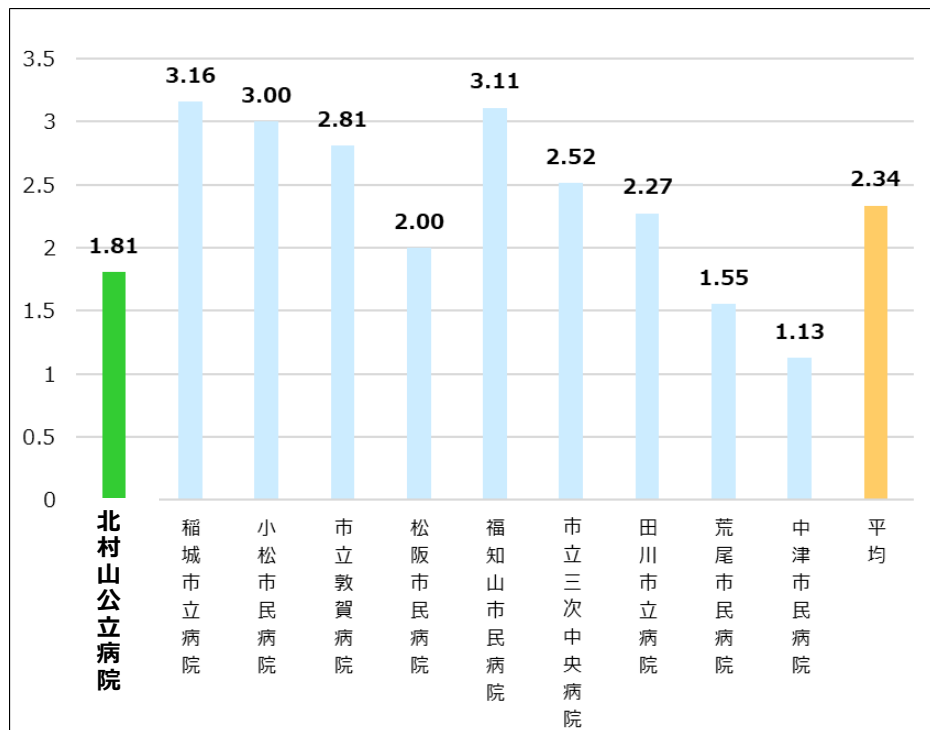
ア) 平成 18 年以降に再整備を行った施設は 1 床あたり 84.1 m²以上と 1 床あたりの面積が広く、施設の再整備にあたっては病院機能を含めて検討する必要がある。

(資料 36) 1 床あたりの面積比較 (m²/床)



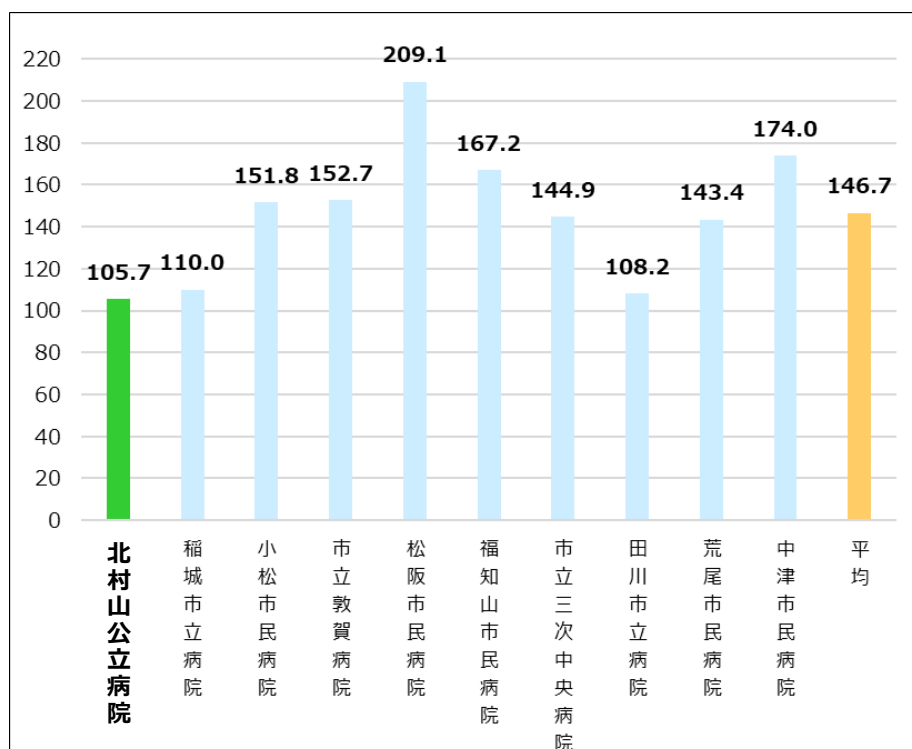
イ) 外来/入院比率は類似病院と比較した場合 0.33 ポイント低くなっている。今後入院経路別患者数データを分析し、入院患者数の増加を図る必要がある。

(資料 37) 外来/入院比率



工) 手術件数が多い急性期病院は職員数が多めとなっている。今後の病院の方針によって適正な職員数を想定する必要がある。

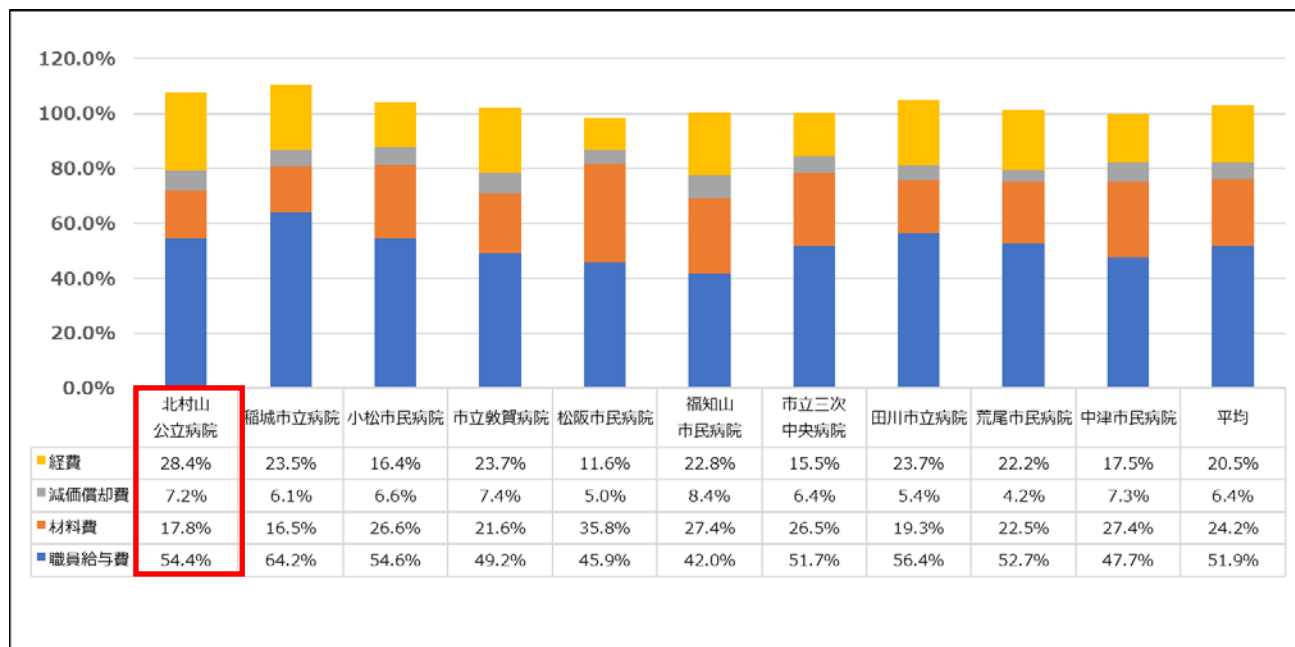
(資料 38) 100床あたりの職員数 (職員数 / 病床数 × 100)



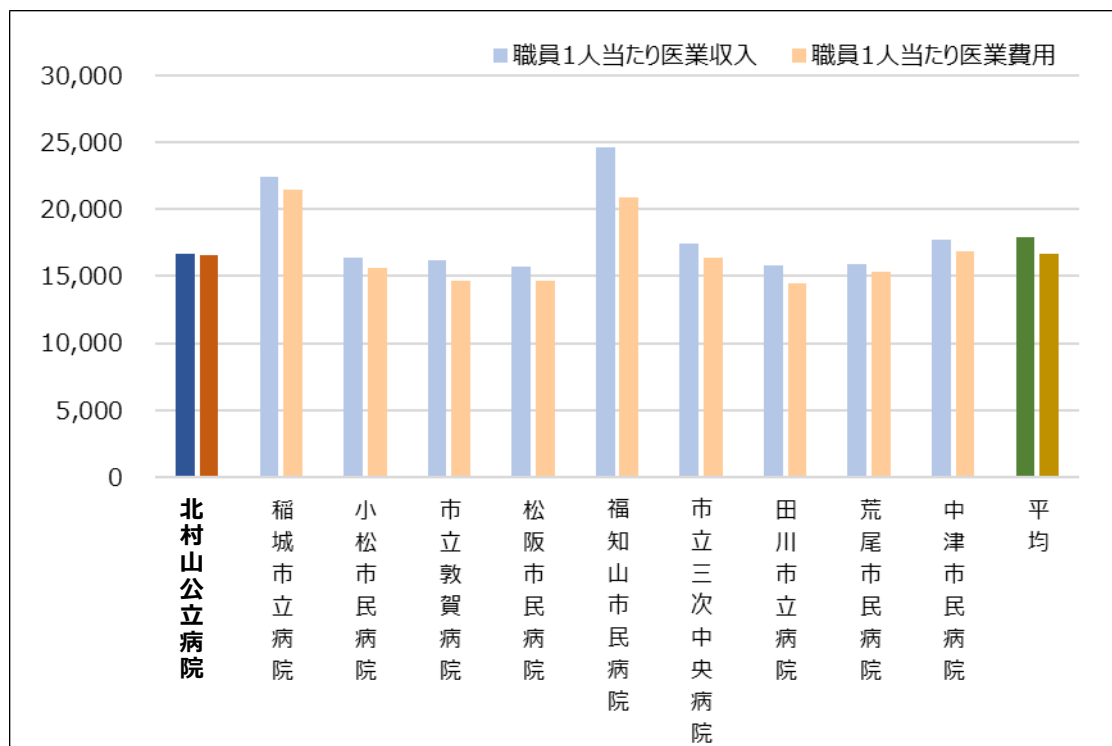
オ) 人件費については、第二人件費である経費項目の委託費も含めて比較する必要がある。職員給与費のみの単純比較は実態と乖離することがあるため注意を要する。

カ) 手術数が少ない場合、医業収入に対する材料費の割合は低くなる。

(資料 39) 医業収入に対する医業費用の主な項目の比率



(資料 40) 職員一人あたりの医業収入と医業費用 (単位 : 円)



(6) 課題の体系化、基本コンセプトの策定

① 北村山地域で求められる病院像（5疾病6事業について）

（資料 41）5 疾病の現状と今後の対応について

	今後の対応について
がん	<ul style="list-style-type: none"> ・地域唯一の急性期病院として、外科系治療及び化学療法を中心に対応する。 ・がん診療拠点病院等と連携し、円滑な初期治療、継続的な治療、回復期における QOL 向上※を支援する。
脳卒中を含む脳血管疾患	<ul style="list-style-type: none"> ・全国的に山形県全体での脳血管疾患の発症割合は高く、急性期の治療体制を維持継続する。 ・高度急性期病院と連携し、術後の回復期を中心に、リハビリテーションによる QOL 向上※の支援及び合併症予防の推進を図る。
心筋梗塞を含む心血管疾患	<ul style="list-style-type: none"> ・急性期の初期治療体制を維持継続する。 ・心不全等の合併症に対する治療体制を構築する。 ・高度急性期病院と連携し、円滑な回復期における治療体制、リハビリテーションにより QOL 向上※を支援する。
糖尿病	<ul style="list-style-type: none"> ・全国的にも増加傾向にあり、発症予防はもちろん、重症化予防について、多職種と共に治療、食生活改善の教育・指導を行っていく。 ・人工透析を継続して提供しつつ、健診や人間ドックにも注力する。
精神疾患	<ul style="list-style-type: none"> ・地域と連携し、認知症や精神合併症、高次機能障害、摂食障害等に北村山地域唯一の急性期病院として対応する。

※補足

「QOL (Quality of Life) 向上」とは、いかに自分らしい生活をするかといった点に着目してその質を高めること。

(資料 42) 6 事業の現状と今後の対応について

	拡充すべき機能
救急医療	・北村山地域唯一の救急告示病院であり、地域住民の健康と命を守るために「断らない病院」を目標とし、急性期医療の中心機能として位置づけ、今後も継続する。
小児医療	・小児医療は担当医師数の確保を継続し、将来的には入院医療への対応できる体制を検討する。
周産期医療	・平成 30 年度より分娩は休止中。 ・妊婦健診は、「産科セミオープンシステム」の健診施設として参加。 ・地域の分娩施設を備えた施設は 1 施設のみであり、分娩機能の再開を引き続き検討する。
災害医療	・災害に強い施設整備を検討する。 ・事業継続計画（BCP）を策定する。
へき地医療	・北村山地域内には、へき地診療を提供する診療所が存在し、多職種連携を進めていく。
新興感染症対策※	・新型コロナウイルス感染症に対しては、発熱外来、PCR 検査の実施、病床確保等の対応を行っている。 ・今後も県の要請に基づき、柔軟に対応する。 ・より安全な動線を確保する。

※国では、第 8 次医療計画（2024 年度～2029 年度）において、「新興感染症等の感染拡大時における医療」を追加することとし、現在の「5 疾病 5 事業」から「5 疾病 6 事業」に変更となる見込みである。

(7) 新病院整備について

病院の建替えについては、今回の調査を踏まえ、諸要素を基本構想及び基本計画にて検討する必要がある。

基本構想 : 建替えの基本方針、プラン、スケジュール等を作成する期間



- ・ 建替えの基本方針
- ・ 診療機能の整理（医療機能、病床規模、他）
- ・ 建物に関する検討（建替え候補地の選定、他）
- ・ 事業方式、概算事業費、事業収支の検討
- ・ スケジュールの検討
- ・ 用地調査及び選定

基本計画 : 基本構想を基に計画を具体化する期間



- ・ 部門別整備計画の策定
- ・ 設計と条件の策定
- ・ 事業収支計画の策定
- ・ 各種整備内容の検討（医療機器、情報システム、運営、委託、他）
- ・ 設計、施工方式の検討
- ・ 用地確保

基本設計 : 建物の基本的な概要を固め、設計図面を作成する期間



- ・ 基本計画を基に設計図面を作成
- ・ 施工方式に関する検討
- ・ 概算建築費用の積算

実施設計 : 設計図面の詳細を作成し、工事費用の積算を確定する



- ・ 基本設計を基に、詳細な設計図面を作成
- ・ 最終的な建築費用を積算
- ・ 施工者の選定支援

施工 : 建築工事



- ・ 造成、本体工事、駐車場整備

開院準備 : 患者搬送、物品移設、運営見直し、他建物以外の各種整備



- ・ 移転準備（患者、医療機器、什器、医療情報システム、他）
- ・ 委託関連対応
- ・ 引っ越し

開院

(8) おわりに

本基礎調査は、北村山公立病院の外部環境及び内部環境に関する現状分析を行い、北村山地域における当院の位置づけを再確認し、老朽化している病院建物の再整備に向けて課題抽出及び方向性を共有することを目的として調査を行った。

外部環境においては、人口の減少と急速な高齢化の進展が予想されているものの、医療需要の主たる対象である65歳以上の人口は緩やかに減少し、一定の医療体制の整備が必要となっている。今まで力を入れてきた救急、脳疾患、循環器疾患、透析などは今後も住民の期待が高い分野と言える。さらに新興感染症への対応も踏まえた、病院規模・機能の検討をするべきである。

内部環境においては、継続的な医師の確保、看護職員の確保、給排水設備や電気設備等の更新、病院の建替え等が課題となっている。財政面においても、ますます厳しい状況になることが予想され、適切に病院経営を行うことが求められている。また、当院は「断らない病院」として、積極的に救急等を受け入れ、基幹病院として地域住民に質の高い医療を提供してきたが、今後についても地域住民が安心して暮らせるように、地域のニーズに合った医療を継続して提供することが求められている。

外部環境や内部環境等の分析を踏まえて、今後、地域における「持続可能な医療供給体制の構築」をおこなうために何をすべきか検討を行うが、老朽化した病院の建替えの課題は避けて通れず、求められている病院の実現に向けて、具体的に機能や規模等を検討していく必要がある。

本報告書を次年度以降に予定されている新病院の基本構想・基本計画策定の規模や機能等を決定するための基礎資料として、十分に活用し、今後の新病院建設に向けた作業を円滑に進めていきたい。

令和4年1月
北村山公立病院

編 集 発 行

北村山公立病院

〒999-3792

山形県東根市温泉町二丁目15番1号

電 話 (0237) 42-2111

F A X (0237) 43-6169